



オオボウシバナ

目次

薬用植物の紹介	薬用植物園長代行	草野源次郎	1
新入生の皆さんへ	学長	矢内原千鶴子	2
大学院臨床薬学コース開設	学長	矢内原千鶴子	3
就任挨拶	講師	廣谷芳彦	4
	助手	市川隼人	4
退任挨拶		藤田直	5
藤田直教授の最終講義によせて	衛生化学教室 教授	天野富美夫	6
	衛生化学教室 助教授	藤本陽子	7
大型機器設置報告	前大型共同機器整備計画委員長	田中一彦	8
平成13年度卒業者の進路状況と平成14年度卒業予定者の進路希望調査		就職部	9
第87回薬剤師国家試験	薬剤師国家試験対策委員長	玄番宗一	13
特別講演会「障害者と人権」を振り返る	人権委員長	土井勝彦	15
環境整備事業	環境保全委員長	稲森善昌	16
平成13年度後期授業・実習評価アンケート	教務部長	石田昇	17
平成14年度入学試験結果と平成15年度入学試験概要			19
平成14年度公開教育講座			21
平成14年度市民講座			21
平成14年度科学研究費補助金採択状況			21
総務課だより			22
教務課だより			23
図書館だより			24
学生課だより			24
健康管理について			25
平成14年度学校法人予算について	事務局長	肥塚敏彰	26
人事（学内関係・法人関係）			27
各部・委員会・委員一覧			28
教員研究業績（2001年）			31

オオボウシバナ *Commelina communis* var. *hortensis* (ツククサ科)

オオボウシバナ(アオバナ)はツククサの変種で、青紙を作るのに滋賀県下で作出された。平賀源内(1720年~1779年)は「^{ぶつるいびんしつ}物類品鑑」という本に、オオボウシバナについて「近江栗本郡山田村産、葉の長さ6、7寸、花卉の大きさに近し。土地の人多植して利す。夏に至って花を採る。家をあげて野に出て花をとり、汁をしぼり、紙を染め、これを青花紙と称し、四方に売る。」と書き残した。ツククサに比べると、オオボウシバナは茎が太く、茎丈も約2倍高くなる。写真に見るように、花も2~3倍大輪で、青色の2弁の花弁は直径約4cmあり、円形で、下方にある白色の1弁の花弁を覆っているように見える。

オオボウシバナは大帽子花で、ツククサをボウシバナと呼んだので、それを大きくした草花という意味が込められている。帽子花はツククサの花の包が2枚の半月形で、下端がしっかりひっついているので、その様子から帽子を連想したのであろう。

ツククサはツククサ科の一年草で、日本全土、中国、朝鮮、ロシア西部に分布し、北米の一部で野生化している。道傍や荒地のやや湿った場所に普通に見られる。

ツククサは約300種の地方名があり、人々の暮らしと深く結びついていたことが伺われる。主な地方名のうち、アオバナ、インキバナ、ウツシバナ、ツキクサなど、青色の花弁を染料として広く利用してきたことが伺われる。ツキクサは着草で、万葉集にも見られる。ツキクサで染めた衣が朝露などで色あせることを、人の心の移ろいやすいことにかけて詠ったものである。ツククサは露草で、早朝に花が咲き、葉に露がついているうちはきれいだが、太陽が高くなると、しおれてしまう。花卉で紙を染めたことは、天平時代(729年~749年)の文書に記録されている。

オオボウシバナは昭和56年(1981年)1月に、滋賀県草津市の「市の花」に指定された。江戸時代(天明時代、1781年~1788年)から、その花卉の汁で製した青紙は、友禅染や絞り染めの下絵を描くための絵具にしてきた。その絵具は水に溶けやすく、本染めをした後には、容易に水で洗い流される。

オオボウシバナは京都で発達した友禅染を支えてきたもので、地の利を生かした植物として有名である。しかし、安価な人工染料の出現で、青紙の需要は激減した。一部の篤志家の努力と愛好者の応援で、オオボウシバナは「市の花」として命脈を保ってきた。

このような時に、オオボウシバナは糖尿病ハイリスク群のための、優れた食材として期待されるようになった。それには α -glucosidase阻害活性を有するDNJとDMDPが含まれる。また、共に含まれるタンニンやフラボノイドが関与して、その抽出エキスは上記アルカロイドに換算して、約20倍強い食後血糖上昇抑制作用を示す。

糖尿病は都市化の進行と過栄養食品の摂取が生み出す現代文明病である。また、それは高齢化が進むにつれて多くなる病気である。わが国では40歳以上の10人に1人が糖尿病患者であり、近い将来、5人に1人の時代がくると予想されている。糖尿病になると、血管壁が傷つき、治り難く、がん、高血圧症、高脂血症、心臓病、腎臓病など、他の病気にも罹り易くなる。また、糖尿病が進行すると、いろいろな合併症が起こる。手足のしびれ、知覚麻痺、慢性腎炎、失明、昏睡などはよく知られている。

糖尿病の予防には、適度な運動と適切な食事が欠かせない。特に、食後の急激な血糖値上昇を抑えることが求められるが、オオボウシバナはそのような効果を示す食材になることが分かった。糖尿病予防対策が急がれる時に、オオボウシバナは新しい役割を果たすことが期待され始めたように思われる。

(教授 草野源次郎)



ツククサ「牧野新日本植物図鑑」(北隆館)

新入生の皆さんへ

学 長 矢内原 千鶴子

校門から学舎への坂道の両脇でツツジの花の数が日一日と目に見えて増えてきました。それに沿って、頭上では、ケヤキの若葉が日増しに密になってきています。新入生の皆さん方にとっては、まだ1ヶ月に満たない大学生活ですが、色々な思いが交錯していることと思います。今年はアドバイザーの先生方との交流会を各先生毎に自由な形でしていただく方を初めて取り入れました。様々なアイデアが出されて、それぞれに楽しい会であったとのことでした。

この連休が明けると授業も実習も本格的になってきます。一方では、大学生活に気の緩みが出てくる時期でもあります。薬学で教育を受けることの意義はどこにあるか。言うまでもなく最終的には薬剤師免許を取得して、その免許にふさわしい責任を持つ職業につくということですが、薬科大学は大学であって職業技術専門学校ではありません。大学とは、社会の第一線に立つべき人を養成する学校と言われています。日本が、長い伝統と独自の文化をもちながら現実には経済国としての地位を失えば、他に誇るべき事は無くなったと憂える人の多い昨今であります。それは、戦後人間としての豊かさを育む教育が疎かにされてきたことも一つの原因と考えられます。20世紀は科学技術の発展を目指して真一文字に進んできた感がありますが、21世紀は人間の世紀であると言われながら、また科学技術の開発があたかも日本の国を不況から救う、世界からの遅れを挽回する唯一の方策であるかのように喧伝されています。国立大学の独立法人化に伴う評価の方法は、そうした流れをさらに助長する方向に動いています。国際交流の中では、それがたとえ科学研究を主体としたものであっても、世界の人人は、それに携わる研究者の人間を視野に入れて評価しています。貧しい教養と品性の持ち主は、その業績が如何に優れていてもそれに相当する評価を受けることはないでしょう。これは日本人全体の問題となりつつあると言っても過言ではありません。

本学では一年次は比較的時間に余裕を残したカリキュラムになっています。そのあり方については議論のあるところではありますが、少なくとも現状では、そうした時間をぜひ自分自身の人間としての内面の成長のために有効に使われることを願っています。それが、将来医療人となるために最も重要なことの一つだからであります。特に経済的な理由のない限り、アルバイトに時間を浪費すること程愚かなことはありません。そこからは“大学で学ぶこと”の大切さを忘れさせ、思考能力を減退させこそすれ、何一つ得ることはないでしょう。社会体験などというのは単なる言い逃れにすぎません。社会体験ならば、むしろボランティア活

動がすすめられます。現実には、修学意欲をなくした人の多くが目的意識もなくアルバイトという一種の麻薬にとりつかれていたのを目撃してきました。4年間は、人生にとって短い、一瞬ともいえる時間です。選ばれて、学ぶ機会を与えられたことに感謝し、大学時代にしか持てないこの短い大切な時間を将来のために有意義に過ごしていただきたいと願っています。

薬学は応用科学です。その中でも基礎系薬学と医療系（臨床系）薬学と大きく分けられています。大学の最初の1～2年には主として一般教育科目の他に基礎系薬学の教育がなされます。薬剤師になるためには医療系（臨床系）薬学を勉強しておけばそれで良いと考える人があるかも知れませんが、基礎系薬学をしっかりと学んでおかなければ、医療の場にあっても薬剤師の役割を果たすことはできません。そして、基礎系薬学は暗記するだけの科目ではありません。その基礎を十分理解し、身につけておかなければ、知識は砂上の楼閣となり、医療系（臨床系）薬学の習得もできなくなるでしょう。本学では、主として1～2年次に習得した基礎系薬学の知識を、何らかの方法で確認し、評価する新しいシステムを導入することを現在検討しています。1～2年次の学修にしっかりと取り組むことを望みます。

本学では、昨年度より、年2回学生の皆さんにアンケート形式による授業評価をしていただいています。その中で、色々な意見や要望なども出されましたが、何度も申し上げていますように、授業は“授”という字を使っていますが、一方的に“授け”たり、“受け”たりするものではありません。双方向にお互いに意思を通わせながら、学生の皆さん方も積極的に参加するべきものです。残念ながら1クラスの人数が少ない場合が多いのですが、躊躇することなく発言し、自分達が納得のいく授業になるように積極的に参加してください。一方、先生方も、評価アンケートの結果を十分考慮し、授業の改善に努力していただいております。単科大学の最も良い点の一つは、学生、教職員が互いに身近に触れ合って、生き生きとした関係の中で日々を送ることができることです。限られた短い年月を、かけがえのない貴重な日々を、充実したものにしようではありませんか。

薬系大学は今、この不況の中にあっても就職には悩まされることはない恵まれた環境にあります。将来どういふ職業につくかを悩むより、どんな職業につくとも、薬科大学生に求められる学修は共通であることを自覚し、基礎系であれ、医療系であれ、しっかりと薬学の基礎を身につけられることを心より願って止みません。

大学院臨床薬学コース開設

学 長 矢内原 千鶴子

本学では本年度より大学院薬学研究科に臨床薬学コース（修士課程）を開設する運びとなりました。全国薬系大学、薬学部大学院の中で半数近くが既に医療薬学系の専攻を設置し、医療薬学系コースも含めると、殆どの大学がその整備を終えている現状にあって、本学がこの点で大きく出遅れていたことは否めず、誠に残念な状態でありました。しかし、全学を挙げての、特に医療薬科学系大学院担当教員の方々の熱意と努力があり、この度そのスタートを切ることができたのは喜ばしく、その遅れを取り戻すために一層の努力が必要であると考えています。ただ、私自身の医療現場での体験からみて、わが国薬系大学大学院での医療薬学系教育が全般的には必ずしも十分、軌道にのっているとは言えない現状であるだけに、本学大学院の臨床薬学コース開設の遅れが、本質的な劣位を意味するものではなく、その育成と完成にかける今後の努力次第であると考えています。

本学大学院臨床薬学コースでは、「薬科学を基盤とした医薬品の適正使用と、薬物治療へ積極的に関与できうる、高度に訓練を受けた薬剤師でありかつ

薬科学者である人材の養成」（臨床薬学コース募集案内序言より）を目指すとしています。修了要件の中心として、特に臨床薬学専門科目を系統的に履修させる必要性の上に立ち、その特論14単位を必修（期末試験を含む）とするとともに、「臨床導入演習」2単位、本学指定研修病院（6ヶ月以上）および主として本学附属薬局（1ヶ月以上）における「臨床実務研修」6単位が必修（原則として1年次）として含まれています（表参照）。特論の開講については、科目等履修生の受け入れや、今後の課題である社会人の入学も考え、16時30分以降の時間帯を設定しています。また、配属研究室は、医療薬科学系のみならず、いずれを選択しても良いことになっています。今後本コースの専攻への格上げ、博士後期課程におけるコースあるいは専攻の開設など早急に進めなければならない課題が残されていますが、まずは、本学独自の特色ある臨床薬学コースを作り上げるべく、関係教員の方々にはたいへん努力して頂いており、必ずや遠からずその目標は達成されるものと考えております。

大学院薬学研究科における一般の修士課程と臨床薬学コースとの比較

	一般の修士課程	臨床薬学コース
修 了 要 件	大学院に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。	大学院に2年以上在学し、臨床導入演習（2単位：必修）、臨床実務研修（6単位：必修）、臨床薬学特論14科目（14単位：必修）、臨床薬学課題研究（8単位：必修）および選択科目、合計30単位以上修得し、配属研究室等において必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。
講 義（特 論）	2年間に開講される特論科目から10単位以上選択して修得しなければならない（必修科目なし）。ただし、臨床薬学特論科目は2単位までに限り選択科目の修了要件に含めることができる。	毎年開講される臨床薬学特論14科目を2年間ですべて修得しなければならない（14単位：必修）。臨床薬学特論以外の特論科目は増加単位としてのみ修得することができる。
演 習	4単位：必修（配属した研究室で実施する）	—
臨床導入演習	—	2単位：必修（原則として配属した研究室で実施する）
臨床実務研修	—	6単位：必修（研修病院および研修保険薬局で実施する） 研修報告書の提出が必要
特 別 実 験	16単位：必修（配属した研究室で実施する）	—
臨床課題研究	—	8単位必修
履 修 要 件	—	薬剤師免許

就任挨拶



講 師
廣 谷 芳 彦

このたび平成14年4月16日付で臨床薬剤学教室の講師に就任いたしました廣谷芳彦です。伝統があり、また、私の母校でもある大阪薬科大学に着任させていただくことになり大変光栄に存じます。着任に当たり、自己紹介かたがた御挨拶申し上げます。

私は、大阪大学医学部附属病院薬剤部に約22年間に在籍していました。薬剤部の日常業務の一環として製剤室では、予包剤、造粒、打錠や液剤、軟膏そして、坐剤の調製とその方法の改良、開発を行い、特に、医師から特殊製剤調製の依頼があった場合には、種々の製剤学検討を行い調製していました。

薬品試験室では、抗てんかん薬などの薬物血中濃度測定および解析、さらに体内動態の確立されていない薬物の血中動態の解析を行う一方、医薬品の種々の条件下での安定性試験、各種局方試験、異物混入物の同定および定量試験を行っていました。最近では、肝薬物代謝酵素(P450)の遺伝子多形の解析を行い、将来、薬物代謝関連遺伝子診断を日常業務として行えるようにデータの蓄積を行っていました。研究面においては、抗炎症剤の持続製剤化や抗ガン剤の副作用防止を目的とした製剤の開発と薬効動態、また、漢方エキス製剤などの品質評価の病院薬学的研究を行いました。一方、ガン遺伝子産物、神経ペプチドや消化管ホルモンなどの生理活性物質における免疫学的微量測定系を確立し、それらを用いて種々の病態での生理活性動態を解析し、さらに臨床応用研究を行っていました。教育面では、大阪大学大学院薬学研究科の協力講座として、臨床薬学コース修士課程の学生の指導に当たり、学部学生や卒業研修生には、講義と実習を行っていました。

このように私は、長く医療現場で薬剤師として勤務しておりましたが、この知識・経験を薬学教育、特に医療薬学教育および臨床薬学研究に生かすことが私の使命と考えています。大阪薬科大学の薬学教育に少しでも貢献できるよう全力で頑張る所存であります。先生方の益々の御指導・御協力の程、よろしくお願い申し上げます。



助 手
市 川 隼 人

この度、機能分子科学部門の助手として着任しました市川隼人です。

私は北海道大学大学院理学研究科を修了後、1年間のアメリカ・カンサス州立大学での博士研究員を経て大阪薬科大学に参りました。専門は有機合成化学、有機金属化学です。今後は有機合成の立場から創薬にかかわる研究を展開したいと考えています。

まもなく創立100周年を迎えようとしている歴史のある大阪薬科大学で、教育者としての仕事をスタートできることに、この上ない幸せを感じています。しかしながら、これまで卒業生の方々が築き上げてこられた伝統に恥じないように緊張感を持ちながら研究に一路邁進し、また学生が自らの夢を実現できるように、助手としてのできる限りのことをしていきたいと考えています。

どうぞよろしくお願い致します。



退任挨拶

藤 田 直

昭和42年4月から本学にお世話になり、本年3月31日付にて定年退職することになりました。衛生化学を担当して30有余年になりましたが、未だに衛生化学の教育・研究の難しさを痛感しているところです。

私が学生時代に教わった衛生化学に比し、現在の衛生化学の進歩は著しく、特に薬学教育の中でも社会環境に左右される学問の一つと考えております。着任当時は若くてエネルギーで、薬学の世界では人間の生命にかかわる薬学教育の重大な使命に鑑み、優れた薬剤師、薬学研究者、技術者を社会に送り出すべく教育、研究の向上に努力して参りました。

わが国の薬学教育は従来基礎薬学に重点が置かれた教育で特色づけられていましたが、近年医薬分業の進展に應ずるため、現在医療薬学教育の重視が課題になっております。しかし、私は基礎薬学に強い薬剤師という伝統を失わず、しかも医療の現場でも活躍できる薬剤師の養成を目指して、薬学教育の一層の充実を図ることを目的としてきました。

しかし、マークシートで育った学生が、次はケイタイで育ってくる時代、文字離れの若者にオーソドックスな教育を行うことは、自分自身にとって大変な努力が必要であることを痛感しました。研究テーマは自由であるというものの、私立大学の小さな研究室で、教育と研究のバランスをどのようにとっていくか、そのマネジメントの難しさ、責任の重大さを痛切に感じる歳月でありました。

思えば私が最初に脂質薬理学という大きなテーマの研究に取り組み、以後その範疇の過酸化脂質、活性酸素、フリーラジカル、プロスタグランジンという流れの中で失敗の連続でしたが、多くの教職員諸君の努力に支えられ、限られた予算の枠内である程度の成果は得られてきましたが、まだまだ完全とはいえません。

研究を発展させるためには研究スタッフの充実は勿論のことではありますが、その実験で得た成績をどのジャーナルに投稿するかによって、その評価が決まると私は常々思っています。別刷の請求が50~100部（最近はITの時代らしく請求は10部に満た

ない）来た場合はその実験のテーマは大切にし、論文の数より、質に重点を置いて以後実験を進めてまいりました。

逆の場合は実験のprotocolを組み直して実験を進めることにしています。というも以前とは異なり現在は内容のある仕事、originalityのある仕事をしないと、この世界では同じ土俵に上げてもらえないことが度々あります。

私学の場合は教育と研究はfifty-fiftyで国立大学のようには研究を中心とした仕事は望めません。この点について、私は若い研究者に特に注意したつもりです。「研究中心の行動を取るな」と。

小さな研究室ですから教育と研究のバランスを考えて仕事することは私にとっても、助手諸君にとっても大変厳しい環境ですが、お互いのcommunicationを大切に頑張ってきました。とはいうものの、近頃各種委員会や、入試業務その他、多種多様な仕事が増えてきている気がします。何か改革をする度に委員会および用事が増えるのが通例です。これまでいろいろな委員会で議論、ケンカもしました。今諸々の思い出が脳裏をよぎります。

やはり大学は教育と研究に全力を集中できるような環境と時間が確保できるような、思い切った改革が必要かも知れませんが、民主主義を否定する気はありませんが、何事にでも集まって長時間議論せねば事が決められぬ方式は多元的になり、目的がバラバラになり結局はまとまらないことになる、この効率(?)をどう判断するか考える時が来ていると思いますが、いかがでしょうか。

最後に学生諸君に、21世紀が本学に輝かしいかどうかは諸君次第です。時間は誰にも平等で1日は24時間です。その使い方でも人生のかなりの部分が決まるでしょう。周りの誘惑に負けず、目的に猛然とぶつかってってください。寿命は延びても若い時代はやはり短いのです。一つのことをやり通した達成感を味わってください。

本学を去るに当たってのお別れの言葉とさせていただきます。本学の今後の一層のご発展をお祈りします。

藤田 直教授の最終講義によせて

衛生化学教室 教授 天 野 富美夫

藤田先生、長い間、大阪薬科大学全体の、そして衛生化学教室のために御尽力戴きまして有難うございました。本日の最終講義によせて、一言御礼の御挨拶を述べさせていただきますと思います。

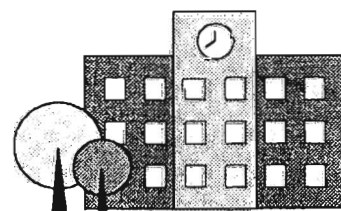
これまで先生が大学に対して果たされた大きな功績につきましては、藤本陽子助教授から御紹介がありますので、ここではその一つ一つを述べることは省かせていただき、私は、昨年の衛生化学教室教授に就任して以来、先生とのお話の中で先生からお教えたいただいたことなどを基に、先生の大学人として、また研究者としての熱い思いを紹介させていただきますと思います。

これまで常に、先生は非常に高邁な理想を掲げて大学の教官としてあるべき姿勢を求めてこられたと思います。なかでも、大学における研究の位置付けを、教育と対峙するものではなく、「研究こそ教育の最大の動力源である」と述べて実践されたことが印象的です。また、「新しいことを実行するためには、思い切りの良さと、これを実現するための努力と周囲の協力が必要である」とおっしゃり、「教育は単に同じことをくり返し講義したり指導したりすることではなく、いつも新しい方向に対して進んでいくことの重要性を、若い学生に身を以て示すことである」と述べておられました。私は大学院を修了後、一貫して国立予防衛生研究所（後の国立感染症研究所）での研究生生活を送ったのち昨年本学の教授になり、教壇に立って講義を行い学生実習等の指導をする立場になりました。そのような新米の教授に対する先生からの心温まる励ましのお言葉として、今でも鮮明に思い出します。

また、先生は、教室員として先生が手塩にかけて育ててこられた藤本助教授や佐久間助手にも、また他大学や企業に就職された多くの方々にも、日頃から、「一つ場所に留まるな。より良い研究場所、教育場所を求めて、常に最大の努力をし、大阪薬科大学から羽ばたいていきなさい。」と指導してこられたそうです。先生のおっしゃるこれらのお言葉は、研究所ではよく聞かれるのですが、それを大阪薬科大学で具体的に実践されてこられたことは素晴らしいことであると思います。少子高齢化社会を迎え、

また経済の停滞を現実の問題として抱える現代日本において、大学のあり方や将来の方向性に対して、先生のこれらの御指導の方針は一つの大きな道標となると思います。

最後に、短い間でしたが、大変多くの貴重な御示唆を戴きまして有難うございました。大阪薬科大学の、そして衛生化学教室の益々の発展のために、私も尽力して参りますので、どうぞ先生、今後とも御助言とお力添えを戴きたくお願い申し上げます。末尾になりましたが、先生の益々の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。



藤田 直教授の最終講義によせて

衛生化学教室 助教授 藤 本 陽 子

藤田 直教授は本年3月末をもって定年御退職されました。それに先立ち平成14年3月20日(水)午後1時より、本学講義室2Aにおきまして「生体における過激グループ“ラジカル”とのつきあい」という演題で藤田先生の最終講義が執り行われました。当日は御多忙にもかかわらず、学内の多数の先生方をはじめ、職員、学生の方々にお集まりいただきました。この誌面をお借りして、改めて厚くお礼申し上げます。また、平日にもかかわらず、教室出身者を中心に学外からも多くの方々が出席してくださいました。

ご講義の冒頭で、藤田先生が本学に着任された年に大学紛争が起り、過激グループという文字が新聞をにぎわしていたこと、そして、先生のライフワークであったラジカルとの出会いについて述べられました。

ご講義の中では、活性酸素、過酸化脂質、フリーラジカルの生体組織における生成と消去機構について、臓器や細胞レベルでの基礎的および応用面から概説されました。活性酸素、過酸化脂質、フリーラジカルとアラキドン酸カスケードとの関わり、ならびに、これらが生活習慣病といわれている糖尿病、動脈硬化症、がんなどの種々の疾病にどのように関与し、そして防御できるかについて、研究成果に基づいた様々な角度からのご講義をしていただきました。さらに、衛生化学的見地から、食品、栄養、生薬成分についても述べられ、化学物質である農薬や抗がん剤とフリーラジカルとの関係についてもわかりやすく解説していただきました。随所に、今後の検討課題を盛り込んだ興味深いご講義でした。本学へ着任された当初の何もない頃のご苦勞をからめて、時に、ユーモアをもってお聞かせいただきました。先生とラジカルとのつきあいのご講義の中で、自分自身も時にラジカルな生き方を求めておられたような気がいたしました。最後に、薬学教育に対する先生のお考えを述べられ、先生の高い見識に改めて感銘を受けました。

藤田先生からはいろいろとお教えいただきましたが、研究面では、物事はいつもマクロにとらえ、トピックスを追うだけではなく、着実な情報のもとでユニークな発想をもって研究テーマを選んでいくことが小規模な研究室において最も重要なことだと言われていました。私がいつも感謝しておりましたこ

とは、毎日、図書館へ行かれ、和洋学術雑誌さらには薬学関係の新聞、雑誌にいたるまですべてに目を通され、教職員に多くの情報と話題を提供していただいたことです。また、研究に関しては、どんなに小さなことでも疑問をもたれ、前向きな情熱と姿勢を身をもって示していただきました。

教育面では、衛生化学という広範囲で複雑な学問を学生にわかりやすく知識を教授するために、絶えずいろいろな本あるいは新聞を読まれ、新鮮な内容を講義の中に取り入れられ、学生の目線で物事をとらえ、学生が興味をもって講義を受けるようにと努力されておられました。また、学生実習では、毎日、学生に声をかけられ、勉学のことをはじめ、本学に来られる前に病院の薬剤部に勤務しておられたその豊富な経験から就職などの相談に積極的に応じておられていた姿が思い出されます。私自身も先生のご指導を受けて25年間、本当にいつも熱心な教育に対する姿勢を学ばせていただきました。

教室内では、職員および学生に対して、研究面では厳しく、しかし、日常生活においては深い愛情をもって接していただきました。「だれだれが元気がない。何かあるのか聞きなさい。」というような細かい配慮をされ、一方、忙しい時には「ゆっくりせよ」、たるんでいる時には「しっかりせよ」と、その都度、教室全体の様子を絶えず見ておられ、適切なアドバイスをされていたと思います。教室内におけるチームワークの大切さを考え、一人一人の行動が実を結び、大きな成果があげられるように願っておられたと思います。

私が、藤田先生に学んだ一番大切なことは、プライドをもつことは必要だが、常に自身に対して謙虚であれということです。努力することは自身を磨き、成長し、そうすれば学生がおのずとついてきてくれるといつも言われておられました。研究と教育において、藤田先生とともに歩んだ25年間は私にとって苦しくもあり、楽しい時間であったと思っております。

藤田先生の御退職は本学にとりまして誠に大きな損失ではありますが、先生にはまだ幸いにも御健勝であられますので、今後本学を去られましても変わらぬ御指導、御助言、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、今後益々御健勝で御活躍されるよう心からお祈り申し上げます。

大型機器設置報告

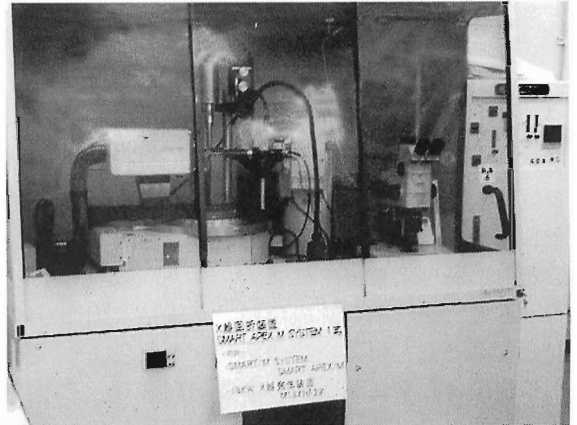
前大型共同機器整備計画委員長 田 中 一 彦

平成13年度に文部科学省が募集した私立大学等研究施設整備費等補助金対象の、大型共同教育研究機器として申請した下記のシステムが採択されました。本年3月末までにこのシステムは導入、完備され、現在、利用されています。

○生物活性をもつ金属錯体の高速構造解析システム
(購入価格61,173,000円, 補助金額29,121,000円)

本システムは、X線回折装置SMART APEX M SYSTEMとデュアルアトマイザー原子吸光分光分析装置 SOLAAR M6から構成されています。

生体内に微量に存在し生物活性を示す金属元素は、蛋白質、ペプチド、アミノ酸、有機リン酸などの種々の物質と結びつき錯体を形成しています。また、錯体における結合の強さや金属の状態によって、その金属の機能や毒性が支配されています。従って、生体中での金属の動態と分布との関係、さらには生体中での金属錯体の構造と機能との関連を調べることは、生体微量金属の働きや金属含有医薬品を開発する上で極めて重要です。しかし、生体に存在する金属にはどのような錯体を形成するか不明なものも多く、また、活性中心の金属元素の役割が分かっていないものも存在しています。それにもかかわらず、金属を含み生体内で錯体として機能する物質が臨床で医薬品として使用されており、吸収・代謝における金属の存在状態を調べ、薬理活性や毒性との関連、疾病との関連、環境との関連などを明らかにすることは急務です。本システムは生体内の微量錯体を知るために、(1) 高感度かつ高速に構造解析に必要なデータを測定し、(2) 含まれる金属の定量を行うことに使用されます。平成10年度に大型共同教育研究機器として設置されたESRシステムと相補的な情報が得られ、先進的な研究が期待されています。



X線回折装置SMART APEX M SYSTEM



デュアルアトマイザー原子吸光分光分析装置 SOLAAR M6

平成13年度卒業者の進路状況と 平成14年度卒業予定者の進路希望調査

就 職 部

◇ 平成13年度卒業者の進路状況

昨年9月の同時多発テロに始まる世界的不況が蔓延している中で、薬系大学卒業生の就職状況は、景気の低迷に加え、薬価の切り下げ、患者の医療費負担増を含む医療保険制度改革及び医薬分業の急速な進展により、ドラスティックに変貌してきています。病院薬剤師の数が現状維持か削減の傾向となる一方、製薬企業の活発な新薬発売や、調剤業務を含む薬局薬剤師の需要が高まり、その結果、卒業生の就職状況が大きく様変わりしております。更に、就職協定の実質的廃止により企業の就職活動の時期が大幅に繰り上がり（一部は3年次生の2月下旬頃）、また、求人情報提供にインターネットを利用するところが多くなり、これらの変動に対応していかなばならない就職活動は学生にとって大変厳しい状況にあります。

このような状況下で今春卒業した学部学生299名（男性102名、女性197名）の進路状況は（表1）に示すとおりでした。薬剤師国家試験合格後に進路決定を希望する者を除き、ほぼ100%の進路決定率となっており、次のような特徴がみられます。

1) 薬業関連企業

この分野への就職率は年ごとに低下傾向にあり、今春卒業生の場合、男性25名、女性32名で、全体の19.0%と、平成12年度（21.7%）より少なくなっています。求人数の非常に多い医薬情報担当者（MR）への決定が男女でほぼ同数的な傾向となっておりますが、内勤領域（研究・開発、学術、品質管理、管理薬剤師）への就職はますます厳しくなっております。

2) 病院・診療所及び病院研修生

この職種における就職率は、従来から20数%でしたが平成9年度（20.5%）から減少傾向がみられ平成12年度は10.8%まで落ち込みましたが、平成13年度は中小病院などの求人件数が増え16.1%と回復傾向がみられました。しかし、病院の求人は基本的には欠員募集しかなく、4年前に厚生省（当時）

により打ち出された病院における薬剤師の配置基準なども影響し、特に大病院では狭き領域となっております。

病院研修生（6.4%）については研修後の基幹病院への就職が厳しくなっています。

3) 薬局

調剤及びOTCを対象とする薬局への就職率は8～9年前では数%でしたが、平成13年度でほぼ7倍（27.1%）になり、最も高い就職率の業種となりました。医薬分業の進展で、保険薬局の増設が急速に進められつつあり、ここ数年はこの分野での薬剤師の需要は増え続けるものと思われます。

4) 公務員・教職員

この職域への就職率も従来より下回る傾向で1.3%でした。

5) 大学院進学

大学院進学が20.7%と年度により多少変動はあるものの徐々に高まっています。これには、文部科学省が大学院の拡充を強力に推進していることや、薬系大学の修業年限の延長が議論されていることなどが影響していると思われます。

6) その他

この項の28名の多くは、薬剤師免許取得後にそれを必要とする職種（例えば病院・薬局）への就職を目指す者であり、薬剤師国家試験が難しくなっている状況からこのような考え方の学生が多くなってきています。この場合でも、薬剤師免許を取得すればその後には全員就職が決定しています。

一方、大学院修士課程修了生の就職は各担当教員の指導のもとで決定され、平成14年3月修了生（42名）の場合も、ほぼ100%の就職率となっておりますが、職種内容の多様化で、「数」より「質」を優先する厳選採用の流れは、さらに強まっています（表2）。

学部卒業生及び大学院修了生の進路先を、（表3）にまとめました。

◇平成14年度卒業予定者の就職ガイダンスと進路希望調査

今年の企業の採用活動は、早期化、長期化、多様化がさらに進む見通しであります。この状況に対応すべく新4年次生には、すでに3年次に3回にわたり就職ガイダンス（平成13年9月、12月、平成14年1月）を行いました。さらに、学生の価値観や行動様式が多様化し、学生の就職への期待も様々であることを踏まえ、本年度より領域別就職ガイダンス（企業、病院、薬局、進学）も行いました。そして、平成13年12月には、本学では4回目となる、製薬企業22社及び薬局18社の参加・協力を得て学内で企業セミナーを実施しました。また、3～4月には学生の職種選択と就職活動の一助として、希望職種別に昨年度の求人先、時期等について紹介しながら、個人面談を行いました。

新4年次生の人数は昨年度より若干増え316名（男性108名、女性208名）で、その進路希望調査結果（表4）によれば、薬業関連企業（MR、内勤）、

病院、薬局が20%前後で大学院進学の内ウェイトが26.7%と高まっているのが特徴です。

実際の就職活動は、製薬企業（MR）を中心として3月頃から開始され、就職先が決まりつつあります。今後は保険薬局・ドラッグストアのセミナーなどで活発化していくものと思われます。今年の薬業関連企業（MR）の求人状況は例年より明るさが見えてきましたが、病院は昨年と同様に厳しく、その反面、保険薬局、ドラッグストアなどでは求人が増えることが予測され、この変動に学生がいかに対応するかが就職率アップの鍵となると思います。

就職部では、従来通り学生一人ひとりの適性や能力に応じてきめ細かな就職指導、相談を行い、学生が満足のいく就職活動ができるように努力しております。関係各位におかれましても本学学生の就職につきましてご指導、ご支援の程よろしくお願ひ申し上げます。

（表1）平成13年度 学部卒業生(49期生)進路状況

(平成14年3月31日現在)

区 分	男性	%	女性	%	計	%
薬業関連企業(MR)	19	18.6	17	8.6	36	12.0
(内勤)	6	5.9	15	7.6	21	7.0
病院・診療所	8	7.8	40	20.3	48	16.1
研修生	3	2.9	16	8.1	19	6.4
薬 局	23	22.5	58	29.5	81	27.1
公務員	2	2.0	2	1.0	4	1.3
教 職 員						
大学院・研究生	35	34.4	27	13.7	62	20.7
そ の 他	6	5.9	22	11.2	28	9.4
計	102	100.0	197	100.0	299	100.0

（表2）平成13年度 大学院博士前期(修士)課程修了生(26期生)進路状況

(平成14年3月31日現在)

区 分	男性	%	女性	%	計	%
薬業関連企業(MR)	1	4.0			1	2.4
(内勤)	15	60.0	10	58.8	25	59.5
病院・診療所	2	8.0	3	17.6	5	11.9
研修生	1	4.0			1	2.4
薬 局	1	4.0	2	11.8	3	7.1
公務員						
教 職 員	1	4.0	1	5.9	2	4.8
博士後期課程	1	4.0	1	5.9	2	4.8
研 究 生 (1)						
そ の 他	3	12.0			3	7.1
計	25	100.0	17	100.0	42	100.0

() は博士後期課程修了生

(表3) 平成13年度(学部・大学院)卒業・修了生進路先
 (合計人数の括弧内は院生数で外数)

企業(医薬情報担当者:MR)

アストラゼネカ	武田薬品工業
エーザイ	第一製薬
大塚製薬	日本イーライリリー
小野薬品工業	日本ベーリンガーインゲルハイム
協和発酵工業	日本ロシユ
健栄製薬	バイエル薬品
佐藤製薬	藤沢薬品工業
三共	フジザン製薬
塩野義製薬	山之内製薬
住友製薬	

計 36(1)名

企業(内勤)

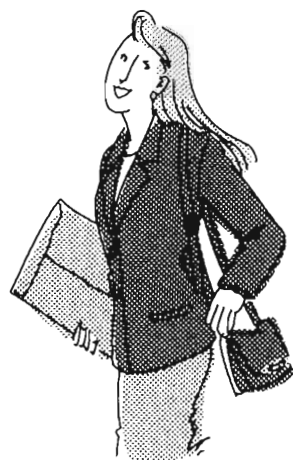
天藤製薬	日本たばこ産業
小野薬品工業	日本メジフィジックス
オフテクス	パレクセルインターナショナル
共和薬品工業	万有製薬
クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン	藤沢薬品工業
小林化工	富士バイオメディクス
興和	藤本製薬
堺化学工業	扶桑薬品工業
参天製薬	ベルシステム24
塩野義製薬	丸石製薬
シミック	マールホ
新日本科学	桃谷順天館
ツムラ	山之内製薬
日本新薬	理研/発生・再生科学総合研究センター
日本製薬	

計 21(25)名

病院

藍野病院	蒼生病院
アラタニ内科医院	大和病院
育和会記念病院	武田病院グループ
茨木医誠会病院	徳山中央病院
大津日赤病院	東和会病院
勝山病院(岡山県)	鳥取赤十字病院
河内総合病院	中井記念病院
岸和田徳洲会病院	中江病院(和歌山市)
北出病院	永山病院
京都民医連中央病院	南風病院(鹿児島市)
協立病院	西宮協立脳神経外科病院
紀和病院	日本赤十字社和歌山医療センター
近畿大学医学部附属病院	寝屋川南病院
草津総合病院	白龍湖病院(広島県)
久野病院	阪堺病院
倉敷中央病院	阪和泉北第二病院
厚生会第一病院	枚方療育園
神戸徳洲会病院	福岡記念病院
佐藤病院	藤本病院
三田高原病院	ベルランド総合病院
順心病院	前田病院(高松市)
市立泉佐野病院	みどりヶ丘病院
摂津医誠会病院	行岡病院

計 48(5)名



薬局

アインファーマシーズ	ダイコク薬品
イオン	ダイゴ
育星会	ダイヤライフ
今川薬品	チトセファーマシー
イレブ	富永調剤薬局
上野センター薬局	東京物産
オーティ薬局	東洋薬局
かんまき薬局	ナガタ薬品
京都シグマプラン	楠公堂薬局
京都ファーマ	日本調剤
協和商事	ハックキミサワ
クラフト	阪神調剤薬局
コクミン	ファーコス
サエラ	ファーマシー木のうた
しあわせ薬局	ファーマプロット
白沢ドラック	フロンティア
スギ薬局	ぼぶら薬局
スギヤマ薬品	マルゼン
すずらん薬局	みどり薬局
セガミメディクス	ユタカファーマシー
総合メディカル	リジョイス薬局

計 81(3)名

公務員・教職員

京都府	京都市
大阪市	高松市

計 4(2)名

病院研修生

大阪医科大学	神戸大学
大阪大学	鳥取大学
岡山大学	三重大学
京都大学	厚生労働省研修センター(国立大阪病院)
京都府立医科大学	

計 19(1)名

大学院・研究生

大阪大学(博士後期課程)	京都薬科大学(博士前期課程)
京都工芸繊維大学(博士後期課程)	共立薬科大学(博士前期課程)
大阪市立大学(博士前期課程)	九州大学(博士前期課程)
大阪大学(博士前期課程)	熊本大学(博士前期課程)
大阪薬科大学(博士前期課程)	静岡県立大学(博士前期課程)
岡山大学(博士前期課程)	東北大学(博士前期課程)
香川大学(博士前期課程)	徳島大学(博士前期課程)
金沢大学(博士前期課程)	名古屋市立大学(博士前期課程)
岐阜薬科大学(博士前期課程)	奈良先端科学技術大学院大学(博士前期課程)
京都大学(博士前期課程)	大阪薬科大学(研究生)

計 62(3)名

その他

就職しない	未	定
自	家	業

計 28(3)名

総計

計 299(43)名

(表4)平成14年度 卒業予定者(50期生)進路希望調査状況
(平成14年4月8日現在)

区分	男性	%	女性	%	計	%
業業関連企業(MR)	20	18.5	23	11.1	43	13.6
(内勤)	4	3.7	17	8.2	21	6.6
病院・診療所	12	11.1	56	26.8	68	21.5
研修生	2	1.9	16	7.7	18	5.7
薬局	18	16.7	44	21.2	62	19.6
公務員	2	1.9	7	3.4	9	2.8
大学院・研究生	42	38.8	42	20.2	84	26.7
自家業・その他	8	7.4	3	1.4	11	3.5
計	108	100.0	208	100.0	316	100.0

第87回薬剤師国家試験

薬剤師国家試験対策委員長 玄 番 宗 一

第87回薬剤師国家試験は、平成14年3月23日、24日に実施されました。本学の新規（49期）卒業生299名と既卒者125名の計424名が受験しました。その結果、新規卒業生の合格率は84.95%、既卒者は44.80%であり、総数としては73.11%でした（表1）。本学の新規卒業生の合格率は、昨年度（第86回国家試験）に比べて、4.83%上昇したのですが、私立薬科大学の新規卒業生の平均合格率89.12%を大きく下回り、29大学中25位が示すように昨年と同じ順位に留まりました（表2）。なお、総数では28位であり、残念な結果になりました。

例年のこととはいえ、成績下位者（特別クラス）の国家試験合格率は、大変低いものです。平成13年度においては、成績下位者から43名を選抜し、5月から8月上旬にかけて基礎学力向上のための講義を先行させました。9月中旬からは、4年次生全員を対象に国家試験対策の講義（薬学総合演習）を、習熟度に応じて実施しました。その間計4回の薬学総合演習試験を実施し、その都度到達目標の達成度をチェックしました。1月上旬に実施した薬学総合演習（必修科目）正規試験の結果、144名が合格しました。この時点で、不合格169名についてこれまでの成績から到達度を解析したところ、約40名は3月の国家試験にほとんど合格の見込みがないと考えました。薬学総合演習科目の合格条件は、国家試験合格の見込みの高い者としていますので、約40名は不合格（卒業延期・4年次留年）もやむを得ないことと思われました。

その後、1月下旬に実施した薬学総合演習再試験の結果から、不合格（留年）者を事情により前年度と同数の16名に留めましたが、前述の40名との差、すなわち24名については、薬学総合演習を合格としたものの、3月の薬剤師国家試験にはほとんど合格の見込みを期待できないことには変わりはありませんでした。最近、他の私立大学では卒業条件を厳しくしているためか、卒業延期（留年）者数の増加傾向がみられます。本学では、卒業延期（留年）者数は16名でしたが、もし多くの他大学にならって卒業条件を『薬剤師国家試験合格見込み』としていたら、卒業延期（留年）者が前述のように約40名となったことでしょうか。この数字は、最近では、特に目だつて多い数ではなく、私立大学では平均的な留年者数と言えます。その場合、本学の新規卒業生の合格率は約89.13%となり、29私立大学中16位であり、合格度中位大学に位置づけられたことでしょうか。すなわち、不合格の可能性が高い学生を4年次に留めて（就業させないで）、在籍学生として国家試験受験のための学習を強化し次年度に備えるほうが、当該学生にとって結果的に合格の確率が上がると思われます。このことは、既卒者の合格率44.80%が示すように極めて低く、不合格者は卒業後職業に就く等、十分な学習環境に恵まれないものと考えられます。留年は辛い結果ですが、4年次に留まり、十分に学習して9月に卒業後、職業に就かずに、母校または全日制の予備校に通学する等して、3月の国家試験に備えることが合格への最も可能性の高い手立てと思われる。

表1 第87回 薬剤師国家試験

区 分	出願者(名)	受験者(名)	合格者(名)	合格率(%)	
新 卒	男	108	102	78	76.47%
	女	205	197	176	89.34%
	計	313	299	254	84.95%
その他卒	計	132	125	56	44.80%
総 数	445	424	310	73.11%	
私 立		9,096	7,473	82.16%	
全 国		11,148	9,009	80.81%	

平成13年度の結果を踏まえて、平成14年度においては、一層きめ細かく留年（卒業延期）生および4年次生を指導します。特に、4年次生のうち、特別再試験受験経験者、留年経験者および薬学総合演習再試験受験者は、毎年のように国家試験合格率が極めて低いので、本人に学習の自覚を強く促します。その上で、1月における『薬学総合演習科目の試験の合格基準は、国家試験合格見込み者』との方針をとります。

表1のように、全国（国公立薬科大学・薬学部）総数の平均合格率は80.81%でした。また、新規卒業生の第87回薬剤師国家試験合格率について、大学設置別では、国立85.70%、公立87.58%に対して、私立89.12%であり、三者の差は非常に接近しました。これまで、国公立大学薬学部卒業生の国家試験の合格率は、私立大学卒業生に比べて極めて低いのが当然かのごとく思われてきた状況が、大きく変化を見せました。前述のように本学新規卒業生の合格率84.95%は、前年度に比べて4.83%の上昇でしたが順位が前年度とほとんど変化がなかったのは、他の大学が合格率をそれ以上に上昇させた結果でしょう。

今後、国家試験問題は年々難しくなる傾向ですが、当面は比較的簡単な問題（受験者のほとんどが正解できる問題）と、やや難易度の高い問題を正答できれば、極めて難易度の高い問題を解答できなくても、合格できるものと思われます。新規卒業生は、国家試験受験後自己の解答結果をマークシートに記して、本学国家試験対策委員会宛てに返送してくれました。その自己採点結果から、240問中147問正解（正答率61.3%以上）は国家試験合格、146問正解（正答率60.8%以下）は不合格であったことが読み取れます。わずか1～2問の誤答で、不合格に泣いた者が

少なからずいます。今後の合格水準の推移、および240問の採点に1～3点の幅があること（480点満点）を考慮すると、次回（第88回）国家試験に備えて、正答率70%（168問正解）を目指して、学習させなければなりません。極めて難易度の高い問題は約30問であり、当面10数%を占めるに過ぎません。従って、これらのすべてを解答できない場合、正答率80%代後半となるのですが、実際には合格目標の正答率70%には、やや難易度の高い問題40数問の一部を解答できなくても、到達できることとなります。

平成14年度においては、①5月から留年者（16名）と成績下位者57名（特別クラス生）を対象に、国家試験対策（前期薬学総合演習）講義を先行させ、平均的レベルへの到達を目指します。②9月18日からは、4年次生全員を対象に国家試験対策の講義（薬学総合演習）を、習熟度に応じて実施し、上の合格目標（正答率70%）を目指して指導します。なお、③10月～12月にかけて計4回の薬学総合演習試験を実施し、その都度到達目標の達成度をチェックします。④2月には、国家試験直前対策として薬学総合演習2月講習会を予定しています。⑤4年次生は特別実習の履修のために各研究室に配属されていますので、特別実習を通じて指導教員が配属学生に国家試験対策の指導も行います。

平成15年3月に実施される第88回薬剤師国家試験に向けて、①～⑤の対策を通じて、学生への学習指導に全力を尽くし、十分な成果をあげたいと考えています。

表2 本学新卒合格率の変遷

区 分						区 分						
		受験者(名)	合格者(名)	合格率(%)	全国平均(%)			受験者(名)	合格者(名)	合格率(%)	全国平均(%)	
第87回 (H.14)	Y	男	40	34	85.00%	88.59% (89.12%) 25位	第86回 (H.13)	Y	男	45	34	75.56%
		女	101	90	89.11%				女	130	111	85.38%
	計		141	124	87.94%			計		175	145	82.86%
	S	男	62	44	70.97%			S	男	46	33	71.74%
		女	96	86	89.58%				女	111	88	79.28%
	計		158	130	82.28%			計		157	121	77.07%
	総 数		299	254	84.95%			総 数		332	266	80.12%

[備考]・全国平均欄の()内は、私立大学のデータであり、下段順位は私立大学(29)における本学の順位である。

・Y：薬学科，S：製薬学科

特別講演会「障害者と人権」を振り返る

人権委員長 土井 勝

人権委員会は、1997年度から毎年、特別講演会を開催し、人権についての啓発と研修を推進してきた。第五回目に当たる今回は「障害者と人権」をテーマに、2001年12月17日に行った。近年、精神に障害があると疑われている人達による不幸な事件が続き、精神障害者に関する新法制定論が台頭したり障害者に対する偏見が拡大しようとしていただけに、時宜を得た講演会となった。

障害者福祉と障害者教育に取り組んでおられる大阪教育大学の二文字理明教授を講師に迎えた。二文字教授は、北欧スウェーデンに留学された後も往來を繰り返され、彼の地の福祉政策にお詳しく、専門書ややさしい絵本の出版なども通じて、新しい福祉思想「ノーマライゼーション」の普及に努めておられる。今回のご講演は、本学構成員のすべてに人権と福祉に対する新しい思想を認識してもらう極めて意義深いものとなった。

ノーマライゼーション思想は、北欧スウェーデンに興った。スカンジナビアはバイキングの国である。9世紀から12世紀に跋扈したバイキングは、ヨーロッパ各地に奥深く遠征して略奪と交易を繰り返したが、上下の区別なく助け合い物資を分かち合う連帯精神を心髄としたとの説明であった。他者と自己との分かち合いによって、社会の平和と安定と繁栄が維持されるという福祉国家理念が、バイキング精神が脈々と受け継がれている北欧に発生した必然性を、すなおに納得できた。

旧来の福祉政策は、どのようにすれば障害をもつ人々が障害を克服し乗り越えて、障害をもたない人々に近づけるかを目標としたもので、言ってみれば、障害をもたない側を基準にした一方的なものであった。障害の程度が重いほど、親や施設のスタッフなどの価値観が支配し、障害をもつ人々は受け身の存在として管理され、必然的に人間として備えているはずの人権と尊厳とを侵害されてしまうのであった。

ノーマライゼーション思想は、1950年代の知的障害者の施設批判に萌芽があるという。この思想の基軸は、古い考え方とは根本的に違って、「インテグレーション」(他者との融合、環境との調和)と「当事者主義」(障害をもつ当事者の意思の尊重)にあるという。障害があるかないかは、極めて相対的でしかないとの観点に立つのである。たとえ障害があったとしても、障害を受け入れる環境、障害を障害としない環境があれば、すべての人々が同じように生きて



いける。障害をもつ人々を特別視したり特別扱いしたりするのではなく、あるがままに受け入れて、日常的な時間と生活空間の中で人間としての尊厳を保ちつつ、自らの意思で生活していくのを援助し、共生していくことを目指すもの。それがノーマライゼーション思想であることを、二文字先生は熱っぽく説かれた。そのためには障害者のための施設を解体してグループホームでの生活や家庭への回帰も重要であるが、心のバリアフリーこそが本質的なノーマライゼーション思想の実践に不可欠なのだと言われた。

いやしくも医療の道を志す本学の学生諸君は、大学時代に、薬の専門知識だけでなく、医療従事者にふさわしい人となりをも身につけなければならない。これは学生のみならず、教職員にも等しく課せられた大きなテーマである。おそらくは、医療人には奉仕の精神と人道主義が、ごく自然なかたちで備わっていなければなりません。このたびのご講演は、障害者についての人権意識を高めるにとどまらず、医療人としての精神のあり方や人への対応の仕方について、深く胸に刻んでおくべき示唆に富むものであった。

本学の人権講演会は、シリーズで毎年一回ずつ、さまざまな角度から人権を取り上げてきたが、今回の講演をもって多面的な人権問題を一通り概観し終えた。次なる課題は、万人の人格の尊厳を当然のこととして受け入れ、相互に認め合って生きていく精神性を身につける本質段階へと発展させていくことであろう。

人権思想は、単一の抽象論で捕捉できるほど単純ではない。人権の本質とは何かと問われて、的確に答えてみせる自信など、私にはまったくない。しかし、今回の講演に通奏低音のごとくまとわりついていた「インテグレーション」と「当事者主義」という2大テーマは、あらゆる差別と人権の問題を考える上で、普遍的に通用する概念であるように思えてならない。

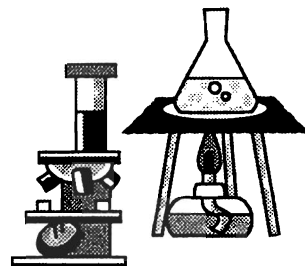
環境整備事業

環境保全委員長 稲森善彦

学生部長の大役が終わりほっとしたところ、考えてもみなかった役が当たった。忘れもしない平成13年4月19日のことである。健康に自信のあった私も寄る年波には勝てず前立腺の病気を患い、委員でありながら、環境保全委員会を欠席した時である。知らない間に委員長に当たっていたのである。欠席裁判とはまさにこのことである。長年、環境保全委員はしてきたが、後久施設課長に議事録をいただき、任の重さに愕然とした。一番ショックだったのは、任期が一年延長されて、二年となっていたことであつた。お忘れの先生方や事務職員の方々もおられるといけないので、書き添えさせていただくと、委員会の構成員にケミカルハザード予防管理委員会委員長の先生に加わっていただくことになったこと、専門部会に省エネルギー専門部会を追加することに決定されたことが大きな変更である。私が委員長として初めて出席した委員会でISO14001（国際環境規格）についての内容説明が前委員長の石田教授と施設課長からあり、同時に『ISO14001認証取得記念シンポジウム』の資料も配付された。説明内容は①本学の教育、研究の目的から、ISO14001の認証取得は必然的である。②取得により対外的なPR効果が期待できる。③施設課長がすでに以前に認証取得の経験をしているとの説明があつた。取得には大変な努力と労力が必要とされるが委員会としては経験者の施設課長の協力を得てISO14001認証取得に前向きに進むことが全員一致で決定された。しかし、私事で恐縮であるが、最も大切な時期に委員長である私が前立腺の手術のため平成13年10月30日から12月末まで入院した。その上、平成14年1月末から2月末まで薬物による肝臓障害でまた入院し、皆様に大変ご迷惑をかけている次第である。誌面をお借りして、衷心よりお詫びしたい。

その間、年末に恒例の環境保全パトロールが石田副委員長を中心に委員の先生方と施設課の方々のご協力により無事終わった。前委員会のご協力により、改善効果が十分認められてきていたが、一部の共用部保管場所において、棚の転倒防止等の対策が施されていないところがあつたので、改善の依頼をすることに決定していただいた。また、廃棄物処理につ

いての注意の一環として、滅菌済プラスチックの取扱いについてのご協力をお願いした。すなわち、廃棄物回収業者が滅菌済プラスチック廃棄物の一般廃棄物としての引き取りを拒否してきたので、これを産業廃棄物扱いに変更することとしたが、処分費が高額であることから廃棄物の減量を図ることに決定し、平成14年1月22日委員会で了承していただき、拡大教授会にて報告した。さらに、ペットボトルについては、再生資源扱いとすることも委員会で決定させていただいた。なお、施設課では新規の白衣や事務服の購入はペットボトルのリサイクル品に切替えたと聞いている。以上、この一年を顧みての環境保全委員会の活動報告であるが、前委員長で副委員長の石田教授をはじめ委員会の先生方、施設課の方々、関係各位のご協力とご支援に感謝しつつ、今後も環境保全委員会へのご協力をお願いして、委員会報告としたい。



平成13年度後期授業・実習評価アンケート

教務部長 石田 寿昌

前期授業科目に続いて、後期授業科目に対しても1～3年次生を対象に評価アンケートを行いました。アンケート調査は、前回の学報にも書きましたが、現在行われている授業（講義内容やレベル）が学生にとって妥当な内容であり、理解させる配慮が十分になされているかを学生に問うとともに、それ以外の全般的な講義に関する意見や要望を聞き、これを基に学生にとってより分かりやすい授業を行うこと、また、学生主体の授業へと改善していくことを目的としています。このアンケートを有意義なものにするためには、今後も全ての講義・実習・演習に対して評価アンケートを継続的に行うことが必要です。それは、各年度の年次系列による統計解析により初めて講義担当者に対する正当で説得力のある授業の総合評価が可能となるからです。そして、このことは教員・学生そして本学の学部教育にとって極めて重要な意義を持つことは言うまでもありません。それゆえ、学生諸君には真摯で積極的な協力が必要不可欠です。

今回のアンケート結果に対する教務部の対応としては、前期の場合と同様に、その結果をデータ化するとともに、該当する講義担当者にはそのアンケート結果を返却しました。そして、各担当者に次のことをお願いしました。即ち、(1) 授業を進めやすくするための具体的な要望や意見、(2) アンケートに協力した学生への講義担当者からのフィードバックとして、先生からのコメントやメッセージを学生に伝える「学生へのメッセージ」への投稿です。(1)については教務部・教務課が中心となって対応します。(2)に対しては小冊子にして学生への閲覧に供しています。現在、(2)へ投稿する担当者は多くありません。しかし、学生との意思疎通を図る上で重要な媒体ですので積極的な利用を強く望んでいます。

ここに、平成13年度後期授業評価アンケート集計結果を掲載いたします。アンケートに協力していただいた学生の延べ人数、設問項目、そして1～3年次科目の全体との比較を示す棒グラフ図です。17の設問項目に対して5段階評価で表しています。黒色は1～3年次全体の平均を、薄灰色、濃灰色、白色は1～3年次の各学年の平均を示しています。棒グラフの縦軸の数値が3.00の場合は各設問の平均評価点に相当いたします。従って、各設問項目の評価は

その値からの変位で解釈してください。前期アンケート結果の場合と同様、学生はあまり予習・復習をしていないことが気になりますが、設問項目の多くは3.5以上であり、講義は比較的良好に進められていると考えられます。今回は、準備の関係で前回行えなかった実習・演習に対しても評価アンケートを実施しました。各設問項目で非常に高い評価となっていました。誌面の関係上割愛させていただきます。

教務部としては、各講義担当者の協力を得て、評価を5.00に近づけることを目標としております。

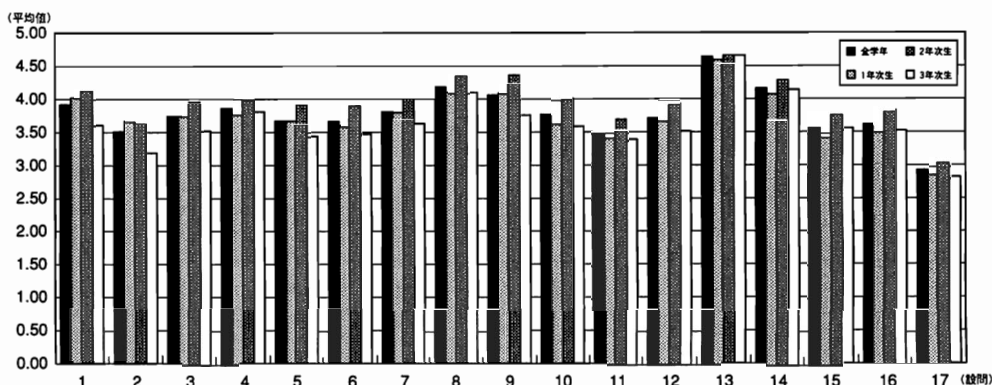
	全 学 年	1 年 次 生	2 年 次 生	3 年 次 生
延べ履修人数	11,622名	3,964名	3,565名	4,093名
延べ回答人数	7,245名	2,488名	2,355名	2,402名
回 答 率	62.3%	62.8%	66.1%	58.7%

〔設 問〕

1. 口調が明瞭で聞き取りやすかったですか
2. 板書が適切で授業の理解に役立ちましたか
3. ポイントをよく押さえ、うまく要約されていましたか
4. 授業は、「授業の内容」(シラバス)に沿って進められましたか
5. 授業は、説明が十分で理解しやすかったですか
6. 授業に対する関心を高める努力がなされていましたか
7. 私語や態度の悪い学生に対し注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されていましたか
8. 授業は、時間通り始まり時間通り終わりましたか
9. テキストやその他の教材を使用していた場合、それは適切に行われていましたか
10. 休講があった場合、その補いは十分にされていましたか
11. 授業内容のレベルはあなたにとって適切と思われましたか
12. この授業を総合的に評価してください。次の評価基準で回答してください
(5-非常に良い、4-良い、3-普通、2-あまり良くない、1-良くない)
13. あなたは、この授業によく出席しましたか?
14. あなたは、私語などせず授業に集中しましたか
15. この授業を受けてその分野に対する関心が高まりましたか
16. この授業は、あなたにとって有意義なものでしたか
17. あなた自身、授業を理解するよう努力(予習・復習等)していましたか

回答は、5-そう思う(5ポイント)、4-どちらかといえばそう思う(4ポイント)、3-どちらともいえない(3ポイント)、2-あまりそうは思わない(2ポイント)、1-そうは思わない(1ポイント)から選択。但し、設問2、9、10については、0-該当しない(0ポイント)を設けている。また、各設問において回答がない場合は、集計から除外している。

2001年度後期授業評価アンケート集計



全学年

設 問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.92	35.5%	34.7%	18.5%	8.9%	2.4%	-	0.0%
2	3.51	20.7%	29.6%	28.1%	13.2%	4.4%	0.0%	4.0%
3	3.74	26.6%	34.7%	27.1%	9.0%	2.6%	-	0.1%
4	3.86	27.2%	33.2%	35.2%	2.2%	0.6%	-	1.6%
5	3.67	24.5%	35.0%	26.8%	10.5%	3.1%	-	0.1%
6	3.66	24.2%	33.3%	29.7%	9.5%	3.2%	-	0.1%
7	3.81	29.7%	32.4%	28.8%	6.3%	2.4%	-	0.4%
8	4.18	46.0%	33.1%	15.6%	4.1%	1.1%	-	0.1%
9	4.06	38.1%	32.1%	18.6%	4.1%	1.6%	32.4%	0.0%
10	3.77	11.5%	7.0%	10.1%	1.9%	1.5%	31.8%	36.2%
11	3.50	16.1%	34.3%	36.2%	9.9%	3.3%	-	0.2%
12	3.71	22.3%	38.1%	27.3%	8.2%	2.4%	-	1.7%
13	4.64	74.1%	17.4%	6.6%	1.5%	0.2%	-	0.2%
14	4.16	44.5%	33.3%	17.0%	4.1%	0.9%	-	0.2%
15	3.59	21.8%	32.7%	32.0%	9.7%	3.7%	-	0.1%
16	3.62	23.4%	32.3%	30.9%	9.6%	3.6%	-	0.2%
17	2.92	8.8%	20.9%	37.3%	18.9%	13.8%	-	0.3%

2年次生

設 問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい ればそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	4.13%	44.1%	33.6%	14.5%	6.7%	1.1%	-	0.0%
2	3.64%	22.6%	32.2%	30.0%	9.7%	2.8%	0.0%	2.6%
3	3.96%	33.6%	36.1%	23.9%	5.4%	1.1%	-	0.0%
4	3.99%	33.1%	33.9%	30.1%	1.4%	0.3%	-	1.3%
5	3.91%	31.6%	37.3%	22.7%	6.8%	1.5%	-	0.0%
6	3.92%	33.4%	35.1%	23.5%	6.2%	1.7%	-	0.1%
7	4.00%	38.5%	31.9%	22.8%	4.9%	2.0%	-	0.1%
8	4.36%	54.8%	30.7%	11.0%	2.7%	0.9%	-	0.0%
9	4.36%	49.4%	31.0%	12.6%	1.1%	0.3%	33.0%	0.0%
10	4.01%	18.1%	8.2%	10.1%	1.7%	1.4%	31.8%	28.7%
11	3.69%	20.1%	38.7%	32.4%	7.4%	1.4%	-	0.0%
12	3.93%	28.5%	41.7%	22.9%	4.5%	1.1%	-	1.3%
13	4.66%	74.6%	18.8%	5.3%	1.2%	0.2%	-	0.0%
14	4.28%	49.5%	32.8%	14.1%	3.0%	0.5%	-	0.0%
15	3.79%	27.6%	36.0%	26.7%	7.1%	2.5%	-	0.1%
16	3.83%	29.4%	35.0%	27.0%	6.7%	2.0%	-	0.0%
17	3.06%	10.3%	21.9%	41.9%	15.3%	10.6%	-	0.0%

1年次生

設 問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい ればそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	4.02%	38.3%	35.6%	18.0%	6.6%	1.5%	-	0.0%
2	3.67%	26.1%	32.8%	25.4%	11.9%	3.3%	0.0%	0.5%
3	3.74%	28.2%	33.4%	25.3%	10.5%	2.7%	-	0.0%
4	3.77%	24.7%	30.5%	40.4%	2.3%	0.7%	-	1.5%
5	3.67%	25.7%	34.0%	25.9%	10.6%	3.8%	-	0.0%
6	3.60%	21.5%	33.1%	32.4%	9.8%	3.2%	-	0.0%
7	3.80%	28.1%	32.7%	31.8%	5.5%	1.8%	-	0.1%
8	4.10%	40.7%	35.2%	19.0%	4.0%	1.0%	-	0.0%
9	4.09%	37.8%	32.0%	18.7%	3.9%	1.1%	23.5%	0.0%
10	3.64%	8.7%	7.1%	10.3%	2.2%	1.6%	22.7%	47.3%
11	3.43%	16.1%	31.9%	36.0%	11.0%	5.1%	-	0.0%
12	3.68%	22.0%	37.1%	28.0%	9.4%	2.3%	-	1.4%
13	4.59%	71.8%	17.6%	8.4%	1.6%	0.5%	-	0.1%
14	4.07%	38.7%	36.2%	19.9%	3.9%	1.2%	-	0.0%
15	3.44%	18.1%	28.6%	37.2%	11.5%	4.6%	-	0.0%
16	3.52%	20.5%	30.3%	34.3%	10.4%	4.4%	-	0.1%
17	2.88%	8.6%	21.2%	35.0%	20.2%	15.0%	-	0.0%

3年次生

設 問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい ればそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.61%	24.2%	35.0%	22.9%	13.3%	4.6%	-	0.0%
2	3.19%	13.3%	23.9%	29.0%	17.9%	7.2%	0.0%	8.7%
3	3.52%	18.2%	34.7%	32.2%	11.1%	3.8%	-	0.0%
4	3.81%	24.3%	35.4%	35.1%	2.9%	0.8%	-	1.6%
5	3.44%	16.2%	33.8%	31.7%	14.2%	4.1%	-	0.0%
6	3.47%	18.2%	31.8%	33.0%	12.4%	4.6%	-	0.0%
7	3.63%	22.9%	32.9%	31.9%	8.5%	3.6%	-	0.2%
8	4.10%	42.8%	33.2%	16.7%	5.8%	1.5%	-	0.0%
9	3.76%	27.4%	33.5%	24.4%	7.5%	3.7%	0.0%	3.6%
10	3.59%	8.0%	5.9%	10.0%	2.0%	1.8%	0.0%	72.4%
11	3.39%	12.4%	32.6%	40.2%	11.4%	3.4%	-	0.0%
12	3.51%	16.6%	35.7%	31.1%	10.8%	3.8%	-	2.0%
13	4.66%	76.0%	15.9%	6.0%	1.9%	0.2%	-	0.0%
14	4.14%	45.4%	31.0%	17.1%	5.5%	1.0%	-	0.0%
15	3.56%	20.1%	33.7%	31.9%	10.5%	3.9%	-	0.0%
16	3.52%	20.7%	31.7%	31.2%	11.8%	4.6%	-	0.0%
17	2.82%	7.8%	19.6%	35.4%	21.3%	15.9%	-	0.0%

平成14年度入学試験結果と平成15年度入学試験概要

■ 平成14年度入学試験結果

試験種別	A O入試 (A方式)			推薦入試 (S方式)			センター試験利用入試 (C方式)			一般入試 I (F方式)		
入学定員	240名											
募集人員	10名			50名			20名			80名		
志願者	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
	第一次選考 39	第一次選考 53	第一次選考 92	87	227	314	351	713	1,064	314	657	971
受験者	第二次選考 9	第二次選考 22	第二次選考 31	87	227	314	350	713	1,063	307	645	952
合格者	1	9	10	13	52	65	53	144	197	66	173	239
入学者	1	9	10	9	32	41	6	7	13	24	61	85

※ A O入試第一次選考は書類審査のみ

■ 平成15年度入学試験概要

試験種別	A O入試 (A方式)	推薦入試 (S方式)	センター試験利用入試 (C方式)	一般入試 I (F方式)
募集人員	10名	50名	20名	80名
出願開始日	平成14年8月26日(月)	平成14年11月1日(金)	平成15年1月8日(水)	平成15年1月8日(水)
出願締切日	平成14年9月13日(金)	平成14年11月7日(木)	平成15年1月16日(木)	平成15年1月23日(木) 平成15年1月24日(金)のみ 持参可
入学試験日	※第二次選考 平成14年10月12日(土) ※第三次選考 平成14年10月26日(土)	平成14年11月10日(日)	平成15年1月18日(土) 平成15年1月19日(日)	平成15年2月1日(土)
合格発表日	平成14年10月31日(木)	平成14年11月22日(金)	平成15年2月7日(金)	平成15年2月7日(金)
入学手続締切日	平成14年11月22日(金) (一括方式)	1次 平成14年12月2日(月) 2次 平成14年12月25日(水) (2段階方式)	1次 平成15年2月24日(月) 2次 平成15年3月24日(月) (2段階方式)	1次 平成15年2月24日(月) 2次 平成15年3月24日(月) (2段階方式)
試験場	本学	本学		本学・大阪予備校・広島国際会議場
試験内容	※第一次選考(書類審査) 自己アピール書 課題レポート 各種証明書 推薦書 調査書 第一次選考結果発表 平成14年9月27日(金) ※第二次選考 [基礎学力確認(理科)] 60分 化学I B, 生物I Bから 1科目選択 [小論文] 60分 第二次選考結果発表 平成14年10月18日(金) ※第三次選考 [面接]	[調査書] 150点 (外国語, 理科の評定平均値 各25点, 数学, 全体の評定平均値 各50点) 学力確認 [理科] 75分 150点 化学I B, 生物I B から1科目選択 [外国語(英語)] 60分 100点 [小論文] 60分 100点	センター試験利用科目 [外国語] 英語 200点 [数学] 数学I・数学A 100点 数学II・数学B 100点 [国語] 国語I, 国語I・国語II から1科目選択 100点 (近代以降の範囲に限定) [理科] 化学I B, 生物I B, 物理I Bのうち最高 得点科目を採用 100点×2 200点 個別学力試験は実施しない	[理科] 90分 100点 化学(化学I B, 化学II) 生物(生物I B, 生物II) から1科目選択 [外国語] 75分 75点 英語I 英語II リーディング ライティング [数学] 75分 75点 数学I 数学II 数学A(数と式, 数列) 数学B(ベクトル, 複素数と複素数平面) [調査書] 150点 (数学, 外国語, 理科の評定平均値各25点, 全体の評定平均値 75点)
判定	提出書類, 基礎学力確認, 小論文及び面接を総合して 判定する	学力確認等及び提出書類を 総合して判定する	センター試験の成績及び提出 書類を総合して判定する	学力試験等及び提出書類を 総合して判定する

試験種別	一般入試Ⅱ (G方式)			帰国生徒特別選抜入試 <K方式>			合計			編入試 (H方式)		
入学定員	240名						240名					
募集人員	80名			若干名			240名			若干名		
志願者	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
	705	1,119	1,824	0	0	0	1,496	2,769	4,265	3	6	9
受験者	641	1,004	1,645	0	0	0	1,394	2,611	4,005	3	6	9
合格者	114	193	307	0	0	0	247	571	818	1	3	4
入学者	62	99	161	0	0	0	102	208	310	1	3	4

試験種別	一般入試Ⅱ (G方式)	帰国生徒特別選抜入試 (K方式)	編入試 (H方式)
募集人員	80名	若干名	若干名
出願開始日	平成15年1月8日(水)	平成14年10月23日(水)	平成14年8月20日(火)
出願締切日	平成15年2月4日(火) 平成15年2月5日(水)のみ持参可	平成14年10月30日(水)	平成14年8月30日(金)
入学試験日	平成15年2月9日(日)	平成14年11月10日(日)	平成14年9月7日(土)
合格発表日	平成15年2月15日(土)	平成14年11月22日(金)	平成14年9月18日(水)
入学手続 締切日	1次 平成15年2月24日(月) 2次 平成15年3月24日(月) (2段階方式)	1次 平成14年12月2日(月) 2次 平成14年12月25日(水) (2段階方式)	1次 平成14年9月26日(木) 2次 平成14年12月25日(水) (2段階方式)
試験場	本学・大阪予備校	本学	本学
試験内容	[理 科] 90分 100点 化学(化学ⅠB, 化学Ⅱ) 生物(生物ⅠB, 生物Ⅱ) から1科目選択 [外国語] 90分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング [数 学] 90分 100点 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A(数と式, 数列) 数学B(ベクトル, 複素数 と複素数平面)	学力確認 [理 科] 75分 化学ⅠB, 生物ⅠBから 1科目選択 [外国語(英語)] 60分 [小論文] 60分 [面接]	[基礎教育分野に関する試験] 100点 (英語・数学) [基礎薬学分野に関する試験] 300点 (化学・生物・物理) [面接]
判定	学力試験及び提出書類を総合して判定する	学力確認, 面接及び提出書類を総合して判定する	学力試験, 面接及び提出書類を総合して判定する

□ 平成14年度公開教育講座 □

公開教育講座は本年度も3回開催する予定です。受講された方には大阪薬科大学から修了証をお渡しし、薬剤師の方には、日本薬剤師研修センターの「研修認定薬剤師制度」による単位認定をいたします(1日2単位)。

また、大阪府薬剤師会から「薬剤師生涯教育受講証」も発行いたします。その他、近畿2府4県の病院薬剤師会からの単位認定も予定しています。

大阪薬科大学 第31回公開教育講座
日 時：平成14年6月22日(土)
13時30分～17時00分

場 所：大阪薬科大学 講義室2A
受 講 料：本学卒業生 2,000円/その他 3,000円
演題/講師：『遺伝子治療をめぐる最近の話題』

「遺伝子治療と核酸化学」
大阪薬科大学機能分子創製化学研究室講師 浦田秀仁
「創薬としての遺伝子治療：ポストゲノム時代の薬物療法」
大阪大学大学院医学系研究科遺伝子治療学助教授 森下竜一

大阪薬科大学 第32回公開教育講座
日 時：平成14年9月28日(土)

演題/講師：「ガン」(予定)
京都大学大学院医学研究科 教授 福島雅典
富山医科薬科大学和漢薬研究所 教授 済木育夫

大阪薬科大学 第33回公開教育講座
日 時：平成15年2月22日(土)

演題/講師：「臨床検査」(予定)
大阪薬科大学臨床化学研究室 助教授 藤田芳一
関西医科大学 教授 高橋伯夫

□ 平成14年度市民講座 □

主に市民の方を対象として実施している恒例の市民講座を、次のとおり本年度も2回開催します。講演内容は参加者の皆様のアンケート結果を参考に決め、市民の方々が参加しやすい講座になるよう努めています。

同時に、「くすりの相談室」、「薬用植物園の見学」も行います。「くすりの相談室」では第一線でご活躍中の薬剤師の方々が、くすりに関するあらゆる相談に応じております。ご近所の方などにご参加いただけるよう、お勧めください。

大阪薬科大学 第13回市民講座
日 時：平成14年5月18日(土)
13時30分～16時50分

場 所：大阪薬科大学 講堂
定 員：約350名(申込不要/先着順)
受 講 料：無料

演題/講師：「脳卒中の予防と治療」
大阪医科大学第一内科(神経内科)講師 杉野正一
「痔(じ)の話」
岡空肛門科院長 岡空達夫

大阪薬科大学 第14回市民講座
日 時：平成14年11月16日(土)(予定)
13時30分～16時50分

場 所：大阪薬科大学 講堂
定 員：約350名(申込不要/先着順)
受 講 料：無料

演題/講師：「ストレス」(予定)

□ オープンキャンパス □

大阪薬科大学オープンキャンパス2002
日 時：平成14年8月2日(金)、23日(金) 13時～
内 容：平成15年度入試概要説明、模擬実験ほか

平成14年度科学研究費補助金採択状況

	職名	氏名	研究種目	研究課題	配分額 (千円)
継続	教授	栗原 拓史	基盤研究(C)	新規ヒスタミンH ₃ アゴニストImifuramineの開発とその展開	600
	講師	大石 宏文	基盤研究(C)	PolyamineとZDNAの相互作用に関する分子動力学およびX線構造研究	500
	助教授	大桃 善朗	基盤研究(C)	脳神経疾患におけるシグマレセプター機能解析のためのインビボ核医学診断剤の開発	600
	教授	千熊 正彦	基盤研究(C)	シスプラチン耐性がんにも有効な新規複核白金錯体と核酸との相互作用に関する研究	600
	教授	石田 寿昌	基盤研究(C)	タウ蛋白質の立体構造解析に基づくタンゲル形成機構の解明	800
	助手	浅野 晶子	若手研究(B)	Asciacyclamide及びその誘導体の活性型コンフォメーションの探索	700
新規	教授	松村 靖夫	基盤研究(C)	腎虚血再灌流障害の分子機構	2,100
	助手	平田 雅彦	若手研究(B)	癌の早期診断と治療を目指したVEGFRチロシンキナーゼ活性診断用放射性薬剤の開発	1,500
	助手	和田 俊一	若手研究(B)	遺伝子治療を目指した膜透過・チャンネル形成ペプチドのベクターとしての可能性	2,300
	助手	藤井 忍	若手研究(B)	中性Mg ²⁺ 依存性スフィンゴミエリナーゼの構造と機能	1,800
合計		10名			11,500

総務課だより

◇ 実験動物慰霊祭

平成13年12月12日(水)午後0時30分より講堂において、日頃実験動物を取り扱っている教職員、学生等約300名参加のもと、実験動物慰霊祭がしめやかに執り行われた。

◇ 最終講義

下記のとおり、藤田直教授の最終講義が行われた。

日 時 平成14年3月20日(水)午後1時

演 題 「生体における過激グルーフ“ラジカル”
とのつきあい」

場 所 講義室2A

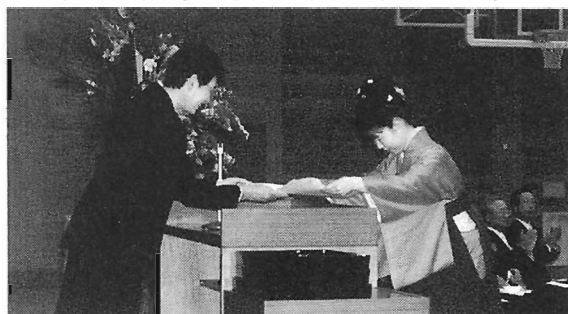
◇ 退職記念パーティー

平成14年3月20日(水)午後5時より大学会館において、藤田直教授、三谷佐孝助教授退職記念パーティーが開催された。



◇ 卒業式・学位記授与式

平成14年3月9日(土)午前10時30分より体育館において、平成13年度大阪薬科大学薬学部卒業式並びに大学院学位記授与式(学部299名、大学院博士前期(修士)課程42名、大学院博士後期課程1名)が来賓・保護者多数参列のもとに挙行された。



◇ 入学式

平成14年4月5日(金)午前10時30分より体育館において、平成14年度大阪薬科大学薬学部並びに大学院入学式(学部310名、大学院博士前期(修士)課程36名)が来賓・保護者多数参列のもとに挙行された。



□ 海外出張 □

千熊 正彦 教授(生体分析化学教室)

<出張期間:平成14年4月30日~5月10日>

ライデン大学大学院博士論文審査委員会出席および研究打ち合わせ

(アムステルダム, オランダ)

石田 寿昌 教授(薬品物理化学教室)

<出張期間:平成14年5月8日~5月11日>

日韓合同シンポジウム

(ソウル, 韓国)

松村 靖夫 教授(病態分子薬理学研究室)

<出張期間:平成14年5月30日~6月2日>

台湾栄養学会における招待講演
(台北市, 台湾)



教務課だより

平成14年度 前期行事予定

◇ 学位授与

[博士]

論博第33号 博士(薬学) 林 一孝
新規カルシウム拮抗薬塩酸ワタニジピン(AE0047)
の降圧薬としての有用性に関する薬理学的研究
(平成13年12月26日付)

博第13号 博士(薬学) 大喜多 守
エンドセリン-1の産生制御における転写因子
NF- κ Bの役割に関する研究
(平成14年3月9日付)



[修士]

修士(薬学) 男 25名 女 17名 計 42名
(平成14年3月9日付)



[学士]

学士(薬学) 薬学科 141名 製薬学科 158名
男 102名 女 197名 計 299名
(平成14年3月9日付)



- 4.5 (金) 入学式(学部・大学院)
- 4.8 (月) 新入生ガイダンス
前期授業開始[2年次生(編入生は除く)・3年次生]
- 4.9 (火) 校医講演・新入生健康診断・アドバイザー面談
- 4.10 (水) 前期授業開始(1・4年次生)
健康診断(新入生以外の学生・職員の女性)
- 4.11 (木) 健康診断(新入生以外の学生・職員の男性)
- 4.12 (金) 前期選択科目・選択必修科目履修届提出締切
(2・3年次生) 午後3時(教務課)
- 4.16 (火) 前期選択科目・選択必修科目履修届提出締切
(1年次生) 午後3時(教務課)
- 4.17 (水) 第87回薬剤師国家試験合格者発表(厚生労働省)
- 4.26 (金) 薬学総合演習オリエンテーション(4年次生)
- 5.9 (木) 創立記念日(休業)
- 5.10 (金) 新入生歓迎会(五月祭)[午後臨時休講]
- 6.8 (土) 学生会球技大会
- 6.17 (月) 前期授業終了(4年次生)
- 6.19 (水)
前期定期試験(4年次生)
- 6.28 (金)
- 7.1 (月) 前期定期試験(4年次生)欠席届提出締切 午後1時(教務課)
平成15年度大学院修士課程推薦入学試験
- 7.8 (月) 平成15年度大学院修士課程推薦入学試験合格者発表
- 7.9 (火)
月曜講義の振替開講日
- 7.10 (水)
- 7.10 (水) 前期授業終了(1~3年次生)
- 7.11 (木)
前期定期試験(1~3年次生)
- 7.19 (金)
- 7.22 (月) 前期定期試験(1~3年次生)
欠席届提出締切 午後1時(教務課)
- 8.21 (水) 平成15年度大学院修士課程一般入学試験
- 8.26 (月) 前期再試験受験者発表(4年次生)
- 8.30 (金) 平成15年度大学院修士課程一般入学試験合格者発表
前期再試験受験者発表(1~3年次生)
- 9.2 (月)
前期再試験(4年次生・1~4年次全科目)
- 9.17 (火)
- 9.5 (木)
前期再試験(1~3年次生)
- 9.20 (金)
- 9.7 (土) 平成15年度編入学試験(H方式)
- 9.18 (水) 平成15年度編入学試験(H方式)合格者発表
- 9.24 (火) 後期授業開始(1~3年次生)
- 9.25 (水) 特別再試験受験者発表(4年次生)
- 9.27 (金) 就職ガイダンス(3年次生)

図書館だより

◇ SciFinder Scholarの紹介

従来、世界の科学にかかわる最新の情報は、新刊科学論文を簡潔に要約したChemical Abstracts (CA)の抄録を利用していましたが、2002年2月よりCAのオンラインサービスであるSciFinder Scholarを導入することになりました。

SciFinder Scholarには、以下の莫大な情報がデータベース化されています。

- 化学物質情報
論文や特許に現れた3,000万件以上の化学物質情報
- 文献情報
1,900万件以上の論文や特許の抄録付き文献情報
- 有機化学反応情報
論文や特許に記載された化学反応情報
- 医学文献情報
1,200万件以上の論文の抄録付き文献情報

SciFinder Scholarにアクセスし、化学物質構造、名称、著者名等をキーワードにして、検索することにより、簡便、迅速に必要な情報を入手することができ、現在利用されている先生方から好評を得ています。

◇ 図書館利用状況

過去3年間（平成11年度から平成13年度）における入館者数ならびに貸出冊数は次の通りです。

• 入館者数 (名)

年度	11年度	12年度	13年度
1年次	7,371	9,485	11,358
2年次	9,073	11,522	12,236
3年次	16,331	14,678	17,082
4年次	15,248	22,900	16,654
院 生	4,249	6,004	8,902
教職員	4,704	4,836	4,393
その他	259	210	358
計	57,235	69,635	70,983

• 貸出冊数 (冊)

年度	11年度	12年度	13年度
学 生	5,663	7,394	9,201
教職員	889	1,019	1,145
計	6,552	8,413	10,346

学生課だより

◇ 新入生導入教育について

新入生の導入教育として、一昨年は神戸農業公園でバーベキュー、昨年は体育館で教員の紹介と軽食を実施し本年度で三回目となりました。今回は、小規模なアドバイザー単位で企画がなされ、5月の連休までにはほとんどが実施されました。多くの新入生が参加し食事会、ハイキング、野球観戦など多彩な企画内容でした。

◇ 学生相談室の開室時間について

平成14年度の学生相談室は

火曜日 14:30~17:30

木曜日 12:00~15:00 となっています。

相談室前のポスト・白板でご予約ください。

電話 (0726) 90-1077やメールcounsel@gly.oups.ac.jpでも予約は可能です。

◇ 財団法人小野奨学会より表彰される

平成14年3月に卒業し、本学大学院に進学した浦田元樹さんは、(財)小野奨学会(久保井一匡理事長)より平成13年度の成績優秀者として善行表彰を受けました。この表彰は、奨学生96名の中から、学業成績優秀者、4年間奨学生として努力した者を対象に、毎年選ばれています。

浦田君にとっては二度目の受賞で、本学では平成5年、6年の岸田朋子さん以来二人目の受賞となりました。2月25日に矢内原学長から表彰状と副賞(図書券)が手渡されました。



◇ 平成14年度学友会執行委員会

執行委員長 藤間一将 (硬式庭球部)
副執行委員長 川原哲也 (バドミントン部)
総務局長 秋元庸子 (柔道部)
厚生局長 中田 寛 (剣道部)
広報渉外局長 西村美智子 (旅行写真部)
体育局長 中川雅史 (ソフトテニス部)
文化局長 日下聖子 (軽音楽部)

◇ 平成14年度大葉祭実行委員会

実行委員長 平間孝治 (ハンドボール部)
副実行委員長 花登千明 (弓道部)
総務部長 秋元庸子 (柔道部)
イベント部長 春日裕貴 (バスケットボール部)
装飾部長 笹井教子 (コーラス部)
渉外部長 高見真代 (テニスサークルレポリューション)
渉内部長 木谷文美 (漢法医学研究部)

◆ 健康管理について

平成14年度学生定期健康診断受診状況（4/9, 10, 11）

※全項目受診者

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	M1	M2	D1	D2	D3	総計
男性	101	23	67	88	26	29			1	335
	103	94	102	108	26	29			2	464
女性	208	51	131	180	9	11				590
	211	190	211	208	10	14				844
計	309	74	198	268	35	40			1	925
	314	284	313	316	36	43			2	1,308
受診率	98.4% <98.6>	26.1% <23.1>	63.3% <17.8>	84.8% <86.4>	97.2% <85.7>	93.0% <88.4>	- <->	- <100>	50.0% <50.0>	70.7% <57.7>

< > 内は平成13年度

平成14年度胸部X線受診状況（4/9, 10, 11）

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	M1	M2	D1	D2	D3	総計	職員
男性	101	35	74	91	26	29			1	357	47
	103	94	102	108	26	29			2	464	79
女性	208	75	172	193	9	11				668	20
	211	190	211	208	10	14				844	36
計	309	110	246	284	35	40			1	1,025	67
	314	284	313	316	36	43			2	1,308	115
受診率	98.4% <98.6>	38.7% <34.2>	78.6% <18.8>	89.9% <86.4>	97.2% <85.7>	93.0% <90.7>	- <->	- <100>	50.0% <50.0>	78.4% <60.6>	58.3% <61.1>

< > 内は平成13年度

平成13年度保健室利用状況（H13.4.1～H14.3.31）

月	利用者別		利用内容別					計
	学生	職員	外科系	内科系	健康指導・相談	休養	転送	
4	268	5	25	50	184	14	0	273
5	290	12	57	61	158	26	0	302
6	433	12	39	48	349	9	0	445
7	184	12	11	37	135	11	2	196
8	28	2	6	3	20	1	0	30
9	88	9	16	27	47	7	0	97
10	232	17	23	76	131	19	0	249
11	176	21	25	65	85	22	0	197
12	169	14	9	55	105	14	0	183
1	93	6	3	26	55	15	0	99
2	101	14	8	47	52	8	0	115
3	23	14	10	11	16	0	0	37
計	2,085 <2,006>	138 <150>	232 <239>	506 <495>	1,337 <1,293>	146 <127>	2 <2>	2,223 <2,156>

< > 内は平成12年度

「外科系」はガーゼ交換，湿布交換を含む。

「健康指導・相談」は健康診断受診証明の発行，検尿，血圧測定，身長・体重測定等を含む。

平成14年度学校法人予算について

事務局長 肥塚 敏彰

学校法人大阪薬科大学の平成14年度予算については、理事会の予算編成方針に基づき、予算委員会の審議を経て編成を行ったが、去る平成14年3月12日に開催された理事会および評議員会において承認されたので、資金収支予算書（総括表）を掲載し、その概要を説明したい。

(総括)

平成14年度の収入予算総額（収入の部合計—前年度繰越支払資金）は32億4,410万円、支出予算総額（支出の部合計—次年度繰越支払資金）は31億4,130万円であり、差引き1億280万円の収入超過となる。

(学生生徒等納付金収入)

授業料15億円、入学金1億7,000万円、施設・設備費7億1,600万円ほかを計上した。

(手数料収入)

入学検定料1億2,600万円ほかを計上した。

(補助金収入)

私立大学経常費補助金2億4,500万円、研究設備・施設整備費補助金5,160万円ほかを計上した。

(事業収入)

附属薬局の収入予算3億5,500万円ほかを計上した。

(人件費支出)

教員人件費は教員充実予算3,000万円を含め8億6,500万円、職員人件費は附属薬局分を含め3億8,500万円を計上した。

(管理経費支出)

附属薬局の物件費3億1,000万円ほかを計上した。

(施設関係支出)

敷地内監視システム工事費770万円、ネットフェンス増強工事費460万円ほかを計上した。

(設備関係支出)

教育研究用機器2億430万円、図書5,180万円ほかを計上した。

資金収支予算書

平成14年4月1日から平成15年3月31日まで

収入の部 (単位 千円)				支出の部 (単位 千円)			
科目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	科目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
学生生徒等納付金収入	2,389,000	2,425,000	△ 36,000	人件費支出	1,319,000	1,376,000	△ 57,000
手数料収入	136,200	121,100	15,100	教育研究経費支出	549,800	535,100	14,700
寄付金収入	10,000	8,000	2,000	管理経費支出	408,500	378,700	29,800
補助金収入	301,800	363,900	△ 62,100	借入金等利息支出	184,900	202,600	△ 17,700
資産運用収入	10,000	10,000	0	借入金等返済支出	358,500	358,500	0
事業収入	357,500	319,000	38,500	施設関係支出	20,000	22,400	△ 2,400
雑収入	45,000	43,000	2,000	設備関係支出	258,400	322,300	△ 63,900
前受金収入	444,000	399,000	45,000	資産運用支出	18,000	17,000	1,000
その他の収入	143,200	200,000	△ 56,800	その他の支出	138,400	134,000	4,400
資金収入調整勘定	△ 592,600	△ 590,000	△ 2,600	[予備費]	10,000	10,000	0
前年度繰越支払資金	1,143,000	458,000	685,000	資金支出調整勘定	△ 124,200	△ 115,000	△ 9,200
収入の部合計	4,387,100	3,757,000	630,100	次年度繰越支払資金	1,245,800	515,400	730,400
				支出の部合計	4,387,100	3,757,000	630,100

□ 人 事 □

学 内 関 係

嘱託 (平成14年4月1日付 期間1年)

森 逸男 (教授)

沼田 敦 (教授)

草野源次郎 (教授)

非常勤嘱託 (平成14年4月1日付 期間1年)

柚木 孝士 (校医)

板倉佐恵子 (学生相談室相談員)

併任 (平成14年4月1日付)

就職部長 田中 一彦 (教授) 任期2年

図書館長 栗原 拓史 (教授) 任期2年

昇任 (平成14年4月1日付)

教授 加藤 義春 (助教授)

馬場きみ江 (助教授)

木村捷二郎 (助教授)

松村 瑛子 (助教授)

講師 当麻 成人 (助手)

係長 増家 博 (学生課主任)

(平成14年5月1日付)

教授 松村 靖夫 (助教授)

(平成14年6月1日付)

講師 高岡 昌徳 (助手)

浦田 秀仁 (助手)

大石 宏文 (助手)

採用 (平成14年1月1日付)

嘱託職員 濱崎 美佳 (附属薬局薬剤師)

(平成14年3月1日付)

嘱託職員 北川 美映 (総務課)

(平成14年4月1日付)

助手 市川 隼人

事務職員 石川 雅人 (学生課)

(平成14年4月16日付)

講師 廣谷 芳彦

(平成14年5月1日付)

事務職員 川崎 香子 (附属薬局)

配置換え (平成14年4月1日付)

秋月 延夫 (総務課長/経理課長より)

松尾 真充 (経理課長/総務課長より)

塚田ひろみ (就職課主任/入試・広報課主任より)

鶴田 政樹 (入試・広報課主任/施設課主任より)

藤原 昭男 (施設課/学生課より)

招へい教授 (平成14年4月1日付 期間1年)

濱 六郎 (客員研究員)

非常勤講師 (平成14年4月1日付)

秋岡 壽 (臨床医学概論)

今泉 昌利 (臨床医学概論)

太田 光熙 (臨床生化学)

笠原 伸元 (医療総合講座)

片山 善章 (臨床検査総論)

北村 瑞穂 (人文科学特論1)

木村 文治 (臨床医学概論)

小坂 美樹 (フランス語1)

小松 敏彦 (体育実技)

斎藤 武 (数学1, 物理学補講)

勢川瑠美子 (看護学総論)

田口 侑男 (数学1, 物理学補講)

寺野 由剛 (毒性学)

戸口 始 (削形設計学)

中村 益久 (臨床薬理学2)

中村 恵 (ドイツ語1, ドイツ語3, 洋書講読ゼミ1, 基礎ゼミ)

古川 恵三 (臨床医学概論)

ホリウチ・スズキ・カズコ (洋書講読ゼミ1)

榊矢 桂一 (ドイツ語1, 洋書講読ゼミ1, 基礎ゼミ)

村田 吉郎 (病態生理学1)

望月伸三郎 (体育実技)

山内 真理 (英語1)

山元 弘 (免疫学)

和田 武夫 (生物統計学)

渡辺 幹典 (社会科学特論1)

Joseph Michael Jacobs (英語3)

Julianne Gay Whitlam (英語3)

Anthony FW Foong (洋書講読ゼミ1)

大学院非常勤講師 (平成14年4月1日付)

上野 和行 (臨床医学Ⅲ)

河北誠三郎 (病態生理学Ⅱ)

濱 六郎 (薬剤疫学)

林 敬次 (臨床医学Ⅰ)

平田 純生 (薬物治療学Ⅱ)

三浦 克之 (薬効安全性学)

光木 徹 (臨床医学Ⅱ)

矢野 育子 (臨床薬物動態学Ⅱ)

非常勤助手 (平成14年4月1日付)

宮田 真希 (体育実技)

客員研究員 (平成14年1月1日付 期間1年)

岩本 隆宏
喜多紗斗美

(平成14年4月1日付 期間1年)

寺野 由剛
中村 益久
濱 六郎

定年退職 (平成14年3月31日付)

沼田 敦 (教授)

退職 (平成14年3月31日付)

岡部しづか (助手)
難波奈緒子 (事務職員)

解 嘱 (平成14年3月31日付)

藤田 直 (教授)
三谷 佐孝 (助教授)

退 任 (平成14年3月31日付)

千熊 正彦・就職部長 (任期満了)
沼田 敦・図書館長 (任期満了)

名誉博士 (平成13年11月8日付)

林 明美

名誉教授 (平成14年4月1日付)

藤田 直

法人関係

理事就任 (平成14年4月1日付)

石田 寿昌

理事退任 (平成14年3月31日付)

沼田 敦

評議員就任 (平成14年4月1日付)

藤田 芳一

解 嘱 (平成14年3月31日付)

河野 光次 (法人事務局顧問)

□ 慶 弔 □

【訃報】

中世古二三子 元評議員 平成14年5月22日 逝去

平成14年度

各部・委員会・委員一覧

◎各部署の長

○副委員長

(代)代行

(平成14年6月1日現在)

教務部

馬場きみ江 (教授)
春沢 信哉 (助教授)
井上 晴嗣 (助教授)

◎石田 寿昌 (教授)

松村 靖夫 (教授)
松島 哲久 (助教授)
西野 隆雄 (講師)

学生部

稲森 善彦 (教授)
濱中久美子 (助教授)
大桃 善朗 (助教授)

◎土井 勝 (教授)

中元 安雄 (助教授)
藤本 陽子 (助教授)
当麻 成人 (講師)

就職部

天野富美夫 (教授)
西野 隆雄 (講師)

◎田中 一彦 (教授)

馬場きみ江 (教授)

図書館

藤田 芳一 (助教授)
土井 光暢 (助教授)

◎栗原 拓史 (教授)

辻坊 裕 (助教授)
楠瀬 健昭 (助教授)

研究委員会

○田中 一彦 (教授)
池田 潔 (教授)
石田 寿昌 (教授)
木村捷二郎 (教授)
辻坊 裕 (助教授)

◎天野富美夫 (教授)

栗原 拓史 (教授)
玄番 宗一 (教授)
千熊 正彦 (教授)
有本 正生 (助教授)
安田 正秀 (講師)

広報委員会

土井 勝 (教授)
掛見 正郎 (教授)
馬場きみ江 (教授)
秋月 延夫 (総務課長)
中山 基宏 (図書課長)
塚田ひろみ (就職課主任)

◎栗原 拓史 (教授)

石田 寿昌 (教授)
田中 一彦 (教授)
高橋 正好 (入試広報課長)
藤田 純生 (学生課長)
古本 浩三 (教務課長)

公開教育講座委員会

天野富美夫(教授)
松村 靖夫(教授)
松島 哲久(助教授)
西野 隆雄(講師)

◎掛見 正郎(教授)

馬場きみ江(教授)
藤田 芳一(助教授)
大桃 善朗(助教授)

人権委員会

稲森 善彦(教授)
千熊 正彦(教授)
阿部 功(助教授)
藤田 純生(学生課長)

◎土井 勝(教授)

石田 寿昌(教授)
加藤 義春(教授)
松島 哲久(助教授)

市民講座委員会

掛見 正郎(教授)
松村 靖夫(教授)
松島 哲久(助教授)
西野 隆雄(講師)

◎馬場きみ江(教授)

天野富美夫(教授)
藤田 芳一(助教授)
大桃 善朗(助教授)

交通整備委員会

◎土井 勝(教授)
肥塚 敏彰(事務局長)

◎矢内原千鶴子(学長)

石田 寿昌(教授)

動物実験委員会

稲森 善彦(教授)
馬場きみ江(教授)
辻坊 裕(助教授)
安田 正秀(講師)

◎池田 潔(教授)

加藤 義春(教授)
松村 瑛子(教授)
大桃 善朗(助教授)
秋月 延夫(総務課長)

学生相談室運営委員会

稲森 善彦(教授)
松村 瑛子(教授)
井上 晴嗣(助教授)
藤田 純生(学生課長)

◎土井 勝(教授)

田中 一彦(教授)
松島 哲久(助教授)
田中 麗子(助教授)

薬剤師国家試験対策委員会

◎中元 安雄(助教授)
春沢 信哉(助教授)
土井 光暢(助教授)

◎玄番 宗一(教授)

三野 芳紀(助教授)
辻坊 裕(助教授)

総務委員会

栗原 拓史(教授)
土井 勝(教授)
千熊 正彦(教授)
肥塚 敏彰(事務局長)

◎矢内原千鶴子(学長)

池田 潔(教授)
石田 寿昌(教授)
田中 一彦(教授)

医療薬学実習委員会

千熊 正彦(教授)
赤木 昌夫(助教授)
三野 芳紀(助教授)

◎田中 一彦(教授)

掛見 正郎(教授)
中元 安雄(助教授)
西野 隆雄(講師)

自己評価委員会

栗原 拓史(教授)
土井 勝(教授)
掛見 正郎(教授)
天野富美夫(教授)
馬場きみ江(教授)

◎矢内原千鶴子(学長)

池田 潔(教授)
石田 寿昌(教授)
田中 一彦(教授)
加藤 義春(教授)
肥塚 敏彰(事務局長)

大学院小委員会

栗原 拓史(教授)

◎池田 潔(教授)

掛見 正郎(教授)

施設委員会

栗原 拓史(教授)
玄番 宗一(教授)
土井 勝(教授)
千熊 正彦(教授)
肥塚 敏彰(事務局長)

◎矢内原千鶴子(学長)

池田 潔(教授)
稲森 善彦(教授)
石田 寿昌(教授)
田中 一彦(教授)

カリキュラム委員会

石田 寿昌(教授)
藤田 芳一(助教授)

◎玄番 宗一(教授)

掛見 正郎(教授)
松島 哲久(助教授)

修学指導委員会

◎坂田 勝治(教授)
土井 勝(教授)
加藤 義春(教授)

◎矢内原千鶴子(学長)

沼田 敦(教授)
千熊 正彦(教授)

環境保全委員会

◎石田 寿昌(教授)
掛見 正郎(教授)
三野 芳紀(助教授)
齊藤 睦弘(講師)

◎稲森 善彦(教授)

池田 潔(教授)
木村捷二郎(教授)
濱中久美子(助教授)
高岡 昌徳(講師)

宇佐美吉英 (助手)
増家 博 (学生課係長)

後久 忠雄 (施設課長)
藤原 昭男 (施設課員)

澤田あつ子 (図書課係長)

高橋 嘉明 (総務課係長)

防火対策委員会

池田 潔 (教授)
石田 寿昌 (教授)
肥塚 敏彰 (事務局長)
藤田 純生 (学生課長)
中山 基宏 (図書課長)

◎矢内原千鶴子 (学長)
土井 勝 (教授)
天野富美夫 (教授)
秋月 延夫 (総務課長)
後久 忠雄 (施設課長)
古本 浩三 (教務課長)

大型共同機器整備計画委員会

土井 勝 (教授)
掛見 正郎 (教授)
馬場きみ江 (教授)
藤田 芳一 (助教授)
大桃 善朗 (助教授)

◎天野富美夫 (教授)
千熊 正彦 (教授)
田中 一彦 (教授)
松村 瑛子 (教授)
春沢 信哉 (助教授)
井上 晴嗣 (助教授)

R I 施設運営委員会

玄番 宗一 (教授)
石田 寿昌 (教授)
草野源次郎 (教授)
松村 靖夫 (教授)
大桃 善朗 (助教授)

◎木村捷二郎 (教授)
稲森 善彦 (教授)
千熊 正彦 (教授)
掛見 正郎 (教授)
藤本 陽子 (助教授)
肥塚 敏彰 (事務局長)

薬用植物園

沼田 敦 (教授)
木村捷二郎 (教授)
田中 麗子 (助教授)
谷口 雅彦 (助手)
後久 忠雄 (施設課長)

草野源次郎 (教授) (代)
馬場きみ江 (教授)
三野 芳紀 (助教授)
西野 隆雄 (講師)
芝野真喜雄 (助手)
高橋 勉 (技術職員)

組換えDNA実験安全委員会

稲森 善彦 (教授)
草野源次郎 (教授)
松島 哲久 (助教授)
辻坊 裕 (助教授)
河野 公一 (学外)

◎池田 潔 (教授)
石田 寿昌 (教授)
田中 一彦 (教授)
藤本 陽子 (助教授)
大桃 善朗 (助教授)
秋月 延夫 (総務課長)

実験動物センター運営委員会

池田 潔 (教授)
千熊 正彦 (教授)
松村 瑛子 (教授)
辻坊 裕 (助教授)
安田 正秀 (講師)

◎掛見 正郎 (教授)
玄番 宗一 (教授)
田中 一彦 (教授)
松村 靖夫 (教授)
大桃 善朗 (助教授)
西野 隆雄 (講師)

バイオハザード予防委員会

池田 潔 (教授)
松村 瑛子 (教授)

◎稲森 善彦 (教授)
天野富美夫 (教授)
安田 正秀 (講師)

ケミカルハザード予防管理委員会

稲森 善彦 (教授)
馬場きみ江 (教授)
有本 正生 (助教授)
井上 晴嗣 (助教授)
和田 俊一 (助手)

◎三野 芳紀 (助教授)
天野富美夫 (教授)
木村捷二郎 (教授)
藤田 芳一 (助教授)
宇佐美吉英 (助手)
後久 忠雄 (施設課長)

情報科学解析センター運営委員会

沼田 敦 (教授)
掛見 正郎 (教授)
土井 光暢 (助教授)
高橋 正好 (施設課長)
中山 基宏 (図書課長)

◎石田 寿昌 (教授)
土井 勝 (教授)
田中 一彦 (教授)
大石 宏文 (講師)
藤田 純生 (学生課長)
古本 浩三 (教務課長)

教員研究業績 (2001年)

(2001. 1. 1 ~ 12.31)

1. 研究学術論文

著者	題目	掲載誌
尹 康子, 藤井真由子, 笹田義夫, 石田寿昌	Structural studies on C-amidated amino acids and peptides: Structures of hydrochloride salts of C-amidated Ile, Val, Thr, Ser, Met, Trp, Gln and Arg, and comparison with their C-unamidated counterparts	<i>Acta Crystallogr., B</i> , 57 , 72 (2001)
石田寿昌, 他	Enantioselective synthesis and absolute configuration of (-)-1-(benzofuran-2-yl)-2-propylaminopentane, ((-)-BPAP), a highly potent and selective catecholaminergic activity enhancer	<i>Bioorg. Med. Chem.</i> , 9 , 1213 (2001)
平田和美, 荒矢順子, 石田寿昌, 他	Side chain-dependent binding of antitumor indoloquinoline derivatives to DNA: Comparative spectroscopic and viscometric measurements	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 49 , 44 (2001)
沈 旭, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Structural and thermodynamic behavior of eukaryotic initiation factor 4E in supramolecular formation with 4E-binding protein 1 and mRNA cap analogue, studied by spectroscopic methods	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 49 , 1299 (2001)
友尾幸司, 佐藤和優, 石田寿昌, 他	Binding diversity of a noncovalent-type low-molecular-weight serine protease inhibitor and function of a catalytic water molecule: X-ray crystal structure of PKSI-527-inhibited trypsin	<i>J. Biochem.</i> , 129 , 455 (2001)
尹 康子, 箕浦克彦, 大石宏文, 石田寿昌, 他	Conformational comparison of μ -selective endomorphin-2 with its C-terminal free acid in DMSO solution, by ^1H NMR spectroscopy and molecular modeling calculation	<i>J. Peptide Res.</i> , 58 , 399 (2001)
尹 康子, 箕浦克彦, 石田寿昌, 他	Functional analysis of C-terminal amide in bioactivity of endomorphin-2; Conformational comparison with its unamidated peptide in DMSO solution	<i>Peptide Sci.</i> , 2000 , 313 (2001)
土井光暢, 浅野晶子, 石田寿昌, 他	Caged and clustered structures of endothelin inhibitor BQ123, cyclo (-D-Trp-D-Asp-Pro-D-Val-Leu-) $\cdot\text{Na}^+$, forming five and six coordination bonds between sodium ions and peptides	<i>Acta Crystallogr.</i> , D57 , 628 (2001)
浅野晶子, 土井光暢, 他	A β -sheet structure formed by C-H...O hydrogen bonds between the thiazole rings and amide bonds of a dimeric desoxazoline ascidiacyclamide analogue	<i>Acta Crystallogr.</i> , E57 , o834 (2001)
土井光暢, 浅野晶子, 宇佐美吉英, 他	A folded conformation of an ascidiacyclamide derivative: 3-methoxysulfoxide-(2R,3R)-threoninyl desoxazoline-ascidiacyclamide	<i>Acta Crystallogr.</i> , E57 , o1019 (2001)
浅野晶子, 土井光暢, 他	Crystal structure of 2[N-(t-butoxycarbonyl)amino]-4-(thymine-1-yl)-butyric acid methyl ester	<i>Anal. Sci.</i> , 17 , 361 (2001)
浅野晶子, 土井光暢, 小林貴代美, 有本正生, 石田寿昌, 他	Effects of amino acids and chirality for molecular folding of desoxazoline-ascidiacyclamide derivatives: X-ray crystal structures of four cyclic octapeptides including unusual amino acids, cyclo(-Ile-aThr-D-Val-Thz-) 2, cyclo(-Ala-aThr-D-Val-Thz-Ile-aThr-D-Val-Thz-), cyclo(-Val-aThr-D-Val-Thz-Ile-aThr-D-Val-Thz-), and cyclo(-Ile-aThr-Val-Thz-Ile-aThr-D-Val-Thz-)	<i>Biopolymers</i> , 58 , 295 (2001)

著 者	題 目	掲 載 誌
土井光暢, 石田寿昌, 他	Synthesis, characterization, and spectroscopic properties of three novel pentadentate copper(II) complexes related to the metal-chelating inhibitors against DNA binding with HIV-EP1	<i>J.Chem.Soc., Dalton Trans.</i> , 441 (2001)
土井光暢, 石田寿昌, 他	KNI-272, a highly selective and potent peptidic HIV protease inhibitor	<i>Acta Crystallogr.</i> , C57, 1333 (2001)
土井光暢, 他	Revised structures for senegalensin and euchrenone b10	<i>J.Nat.Prod.</i> , 64, 1336(2001)
土井光暢, 藤田さおり, 他	Antiparallel pleated β -sheets observed in crystal structures of N,N-Bis(trichloroacetyl) and N,N-Bis(m-bromobenzoyl) gramicidin S	<i>Arch.Biochem.Biophys.</i> , 395, 85 (2001)
大石宏文, 他	Stereospecific 1,3-migration of an Fe(CO) ₅ group on acyclic conjugated polyenes: Application to remote and iterative asymmetric induction	<i>J.Org.Chem.</i> , 66, 6116(2001)
大石宏文, 他	Asymmetric total synthesis of halicholactone	<i>J.Org.Chem.</i> , 66, 81(2001)
藤田芳一	Development of novel quantitative determinations of urinary proteins using dye-metal complex method	<i>ICMR Annals</i> , 20, 237(2000)
藤田芳一, 森 逸男, 山口敬子, 星野 満, 重村康之, 島野元伸	Spectrophotometric determination of ascorbic acid with iron(III) and <i>p</i> -carboxyphenylfluorone in a cationic surfactant micellar medium	<i>Anal.Sci.</i> , 17, 853(2001)
星野 満, 森 逸男, 本松未帆, 中谷健三, 山口敬子, 藤田芳一	<i>p</i> -カルボキシフェニルフルオロン及びチタン(IV)を用いる塩酸ミノサイクリンの吸光光度定量	分析化学, 50, 547(2001)
山口敬子, 村瀬裕成, 森 逸男, 藤田芳一	プロモピログロールレッド-モリブデン(VI)錯体との呈色反応に基づく塩酸プロプラノロール及び関連薬物の吸光光度定量	分析化学, 50, 563(2001)
齋藤睦弘, 本田正宏, 千熊正彦	Preparation and some properties of low-molecular-weight selenotrisulfide compounds and selenium-containing, high-molecular-weight, heparin-related compounds	<i>RIKEN Rev.</i> , 35, 5 (2001)
千熊正彦, 他	Preparation and characterization of a sulfonated dibenzoylmethane immobilized anion-exchange resin	<i>Anal.Sci.</i> , 17(Suppl.), 713, (2001)
木村捷二郎, 山沖留美	ドクダミ中の ¹³⁷ Csの挙動	<i>Radioisotopes</i> , 50, 357(2001)
岩本千佳, 山田剛司, 伊藤義典, 箕浦克彦, 沼田 敦	Cytotoxic cytochalasans from a <i>Penicillium</i> species separated from a marine alga	<i>Tetrahedron</i> , 57, 2997(2001)
山田剛司, 入谷雅士, 土井光暢, 箕浦克彦, 沼田 敦, 他	Absolute stereostructures of cell-adhesion inhibitors, macrosphelides C,E-G and I, produced by a <i>Periconia</i> species separated from an <i>Aplysia</i> sea hare	<i>J.Chem.Soc., Perkin Trans.1</i> , 3046(2001)
荒木理佐, 春沢信哉, 伊地智郁乃, 高嶋誠一郎, 大石宏文, 栗原拓史	Synthesis of cis- or trans-2,4-disubstituted tetrahydrofurans bearing amino and imidazole groups by efficient use of the modified or standard Mitsunobu cyclization: Synthetic studies toward novel histamine H3-ligands	<i>Heterocycles</i> , 55, 889(2001)
荒木理佐, 春沢信哉, 福田繭子, 栗原拓史	Synthesis of 4(5)-(α-D-xylofuranosyl)imidazole starting from L-arabinose: Mitsunobu cyclization via C4'-oxyphosphonium intermediate	<i>Heterocycles</i> , 55, 1907(2001)

著 者	題 目	掲 載 誌
浦田秀仁, 青野知永, 宍本憲彦, 島本裕子, 小林淑子, 赤木昌夫	Efficient and homochiral selective oligomerization of racemic ribonucleotides on mineral surface	<i>Chem.Lett.</i> 4, 234(2001)
浦田秀仁, 宮腰英貴, 熊代哲也, 森 佳司, 庄司桂子, 赤木昌夫	Basis for the right-handed helical sense of double- stranded DNA:Formation of the right-handed helix by L-oligonucleotides fixed in <i>low-anti</i> glycosyl conformation	<i>J.Am.Chem.Soc.</i> , 123, 4845 (2001)
芝野真喜雄, 塚本大介, 井上貴絵, 高瀬陽子, 草野源次郎	The biosynthesis of broussonetines:Origin of the carbon skeleton	<i>Chem.Pharm.Bull.</i> , 49, 504, (2001)
草野昭子, 芝野真喜雄, 塚本大介, 草野源次郎	Studies on the constituents of <i>Cimicifuga</i> species. X X VIII.four new cycloart-7-enol glycoside from the underground parts of <i>Cimicifuga simplex</i> Wormsk.	<i>Chem.Pharm.Bull.</i> , 49, 437, (2001)
塚本大介, 芝野真喜雄, 岡本理恵子, 草野源次郎	Studies on the constituents of <i>broussonetia</i> species VII.four new pyrrolidine alkaloids, broussonetines R,S,T,and V and a new pyrroline alkaloid,broussonetine U,from <i>Broussonetia kazinoki</i> Sieb.	<i>Chem.Pharm.Bull.</i> , 49, 492 (2001)
塚本大介, 芝野真喜雄, 草野源次郎	Studies on the constituents of <i>broussonetia</i> species X .six new alkaloids from <i>Broussonetia kazinoki</i> Sieb.	<i>Chem.Pharm.Bull.</i> , 49, 1487 (2001)
芝野真喜雄, 塚本大介, 増田敦子, 田中靖子, 草野源次郎	Two new pyrrolidine alkaloids,radicamines A and B,as inhibitors of α -glucosidase from <i>Lobelia</i> <i>chinensis</i> Lour.	<i>Chem.Pharm.Bull.</i> , 49, 1362, (2001)
草野昭子, 芝野真喜雄, 草野源次郎, 他	Effects of fukinolic acid and cimicifugic acids from <i>Cimicifuga</i> species on collagenolytic activity	<i>Biol.Pharm.Bull.</i> , 24, 1198, (2001)
芝野真喜雄, 塚本大介, 田中靖子, 増田敦子, 織原志帆, 安田正秀, 草野源次郎	Determination of 1-deoxynojirimycin and 2,5- dihydroxymethyl 3, 4-dihydroxy pyrrolidine contents of <i>Commelina communis</i> var. <i>hortensis</i> and the antihyperglycemic activity	<i>Nat.Med.</i> , 55, 251,(2001)
芝野真喜雄,草野源次郎, 他	カンゾウ属植物のRandom amplified polymorphic DNA (RAPD)分析による分類 特に, <i>Glycyrrhiza</i> <i>glabra</i> L.と <i>G.uralensis</i> Fischerの識別	<i>Nat.Med.</i> , 55, 287,(2001)
三野芳紀, 森山洋子	Possible remediation of dioxin-polluted soil by steam distillation	<i>Chem.Pharm.Bull.</i> , 49, 1050 (2001)
谷口雅彦, 馬場きみ江, 他	Inhibitory mechanism of daphnodorins for human chymase	<i>Biochem.Biophys.Res.Commun.</i> 283, 831(2001)
王 年鶴, 吉崎幸一郎, 馬場きみ江	Seven new bifuranocoumarins,dahuribirin A-G,from Japanese Bai Zhi	<i>Chem.Pharm.Bull.</i> , 49, 1085(2001)
谷口雅彦, 馬場きみ江, 他	Inhibitory potential of herbal medicines on human cytochrom P450-mediated oxidation:Properties of Umbelliferous or Citrus crude drugs and their relative prescriptions	<i>Jpn.J.Pharmacol.</i> 85, 399(2001)
中田功二, 馬場きみ江	アシタバのヒスタミン遊離抑制作用	<i>Nat.Med.</i> , 55, 32(2001)
中田功二, 馬場きみ江, 他	Artery relaxation by chalcones isolated from the roots of <i>Angelica keiskei</i>	<i>Planta Medica.</i> , 67, 230(2001)

著 者	題 目	掲 載 誌
岩本 学, 大津博則, 松永春洋, 田中麗子, 他	Anti-tumor promoting diterpenes from the stem bark of <i>Thuja standishii</i> (Cupressaceae)	<i>Bioorg. & Med. Chem.</i> , 9, 1911 (2001)
田中麗子, 南 俊史, 辻本和広, 松永春洋, 吉武 彬, 他	Cancer chemopreventive agents, serratane-type triterpenoids from <i>Picea jezoensis</i>	<i>Cancer Lett.</i> , 172, 119(2001)
田中麗子, 辻本和広, 尹 康子, 石田寿昌, 松永春洋, 他	Structure and stereochemistry of epoxyserratanes from the cuticle of <i>Picea jezoensis</i> var. <i>jezoensis</i> .	<i>J. Nat. Prod.</i> , 64, 1044(2001)
和田俊一, 田中麗子, 他	Screening of triterpenoids isolated from <i>Phyllanthus flexuosus</i> for DNA topoisomerase inhibitory activity	<i>J. Nat. Prod.</i> , 64, 1545(2001)
大津博則, 田中麗子, 尹 康子, 松永春洋, 他	Abietane diterpenoids from the cones of <i>Larix kaempferi</i> and their inhibitory effects on Epstein-Barr virus activation	<i>Planta Medica</i> , 67, 55(2001)
和田俊一, 田中麗子, 他	Triterpene constituents from the stem bark of <i>Pinus luchuensis</i> and their DNA topoisomerase II inhibitory effect	<i>Planta Medica</i> , 67, 659(2001)
田中麗子, 松永春洋, 吉武 彬, 他	Possible prevention by abieslactone of development of diethylnitrosamine-initiated GST-P positive foci in the rat liver	<i>Teratogenesis, Carcinogenesis, and mutagenesis</i> , 21, 223(2001)
藤本陽子, 他	12-Hydroxyeicosatetraenoic acid potentiates angiotensin II-induced pressor response in rats	<i>Eur. J. Pharmacol.</i> , 418, R 1 (2001)
藤本陽子, 佐久間覚, 居場嘉教, 佐々木智子, 藤田 直	Tetrahydrobiopterin attenuates modulation of platelet 12-lipoxygenase and cyclooxygenase activities by nitric oxide	<i>Nitric Oxide: Biology and Chemistry</i> , 5, 77(2001)
佐久間覚, 藤本陽子, 加藤祐輔, 北尾晃徳, 藤田 直	The effects of fatty acyl CoA esters on the formation of prostaglandin and arachidonoyl-CoA formed from arachidonic acid in rabbit kidney medulla microsomes	<i>Prostaglandins Leukot, Essent. Fatty Acids</i> , 64, 61(2001)
藤本陽子, 佐久間覚, 藤田 直, 他	Characterization of multiple Chinese hamster carbonyl reductases	<i>Chemico-Biological Interactions</i> 130-132, 847(2001)
目次邦彦, 勝又英之, 岩永一範, 掛見正郎, 他	Effects of low-viscosity sodium hyaluronate preparation on the pulmonary absorption of rhinsulin in rats.	<i>Drug Dev. Ind. Pharm.</i> , 27, 365 (2001)
勝又英之, 藪田俊之, 岩永一範, 掛見正郎, 他	Evaluation of gelatin microspheres for nasal and intramuscular administrations of salmon calcitonin.	<i>Eur. J. Pharm. Sci.</i> , 13, 179(2001)
宮崎 誠, 向井治子, 岩永一範, 掛見正郎, 他	Pharmacokinetic-pharmacodynamic modeling of human insulin: validity of pharmacological availability as a substitute for extent of bioavailability	<i>J. Pharm. Pharmacol.</i> , 53, 1235 (2001)
西野隆雄, 他	The influence of commonly prescribed synthetic drugs for peptic ulcer on the pharmacokinetic fate of glycyrrhizin from Shaoyao-Gancao-tang	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 24, 1395 (2001)
西堀崇子, 田中一彦, 他	Effect of fluvoxamine on the pharmacokinetics of mexiletine in healthy Japanese men	<i>Clin. Pharmacol. Ther.</i> , 69, 104 (2001)

著 者	題 目	掲 載 誌
田中一彦, 他	The stereoselective effects of bucolome on the pharmacokinetics and pharmacodynamics of racemic warfarin	<i>J. Clin. Pharmacol.</i> , 41 , 459 (2001)
西堀崇子, 田中一彦, 他	Relationship between digoxin-like immunoreactive factors and liver function tests in two patients undergoing hemodialysis	<i>TDM研究</i> , 18 , 291(2001)
田中一彦, 他	遊離型Valproic Acid濃度 (f-VPA) が変動する透析症例: VPA蛋白結合率の変動要因について	<i>TDM研究</i> , 18 , 307(2001)
田中一彦, 他	尿毒症血清中の蛋白結合阻害因子の影響について	<i>日透医誌</i> , 16 , 190(2001)
山崎智之, 玉井 功, 松村靖夫	Activation of histamine H ₃ receptors inhibits renal noradrenergic neurotransmission in anesthetized dogs	<i>Am. J. Physiol.</i> , 280 , R1450(2001)
松村靖夫, 奥井朝子, 他	Antihypertensive effects of chicken extract against deoxycorticosterone acetate-salt-induced hypertension in rats	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 24 , 1181 (2001)
高岡昌徳, 大喜多守, 伊藤 誠, 小林 豊, 岡本尚子, 松村靖夫	A proteasome inhibitor prevents vascular hypertrophy in deoxycorticosterone acetate-salt hypertensive rats	<i>Clin. Exp. Pharmacol. Physiol.</i> , 28 , 466(2001)
松村靖夫, 喜多紗斗美, 奥井朝子	Mechanisms of endothelin-1-induced potentiation of noradrenaline response in rat mesenteric artery	<i>Clin. Exp. Pharmacol. Physiol.</i> , 28 , 540(2001)
松村靖夫, 喜多紗斗美, 奥井朝子	Potentiation by endothelin-1 of vasoconstrictor response in stroke-prone spontaneously hypertensive rats	<i>Eur. J. Pharmacol.</i> , 415 , 45(2001)
高岡昌徳, 小林 豊, 弓場実規広, 大喜多守, 松村靖夫	Effects of α -lipoic acid on deoxycorticosterone acetate-salt-induced hypertension in rats	<i>Eur. J. Pharmacol.</i> , 424 , 121 (2001)
山下潤二, 尾形政哉, 高岡昌徳, 松村靖夫	KB-R7943, a selective Na ⁺ /Ca ²⁺ exchange inhibitor, protects against ischemic acute renal failure in mice by inhibiting renal endothelin-1 overproduction	<i>J. Cardiovasc. Pharmacol.</i> , 37 , 271 (2001)
只野清史, 山崎智之, 松村靖夫	Effects of bradykinin on renal nerve stimulation-induced antidiuresis and norepinephrine overflow in anesthetized dogs	<i>J. Cardiovasc. Pharmacol.</i> , 37 , 461 (2001)
山下潤二, 伊藤 誠, 黒 敏彦, 小林 豊, 尾形政哉, 高岡昌徳, 松村靖夫	Pre- or post-ischemic treatment with a novel Na ⁺ /Ca ²⁺ exchange inhibitor, KB-R7943, shows renal protective effects in rats with ischemic acute renal failure	<i>J. Pharmacol. Exp. Ther.</i> , 296 , 412 (2001)
伊藤 誠, 高岡昌徳, 柴田朗秀, 大喜多守, 松村靖夫	Preventive effects of lactacystin, a selective proteasome inhibitor, on ischemic acute renal failure in rats	<i>J. Pharmacol. Exp. Ther.</i> , 298 , 501 (2001)
幸田祐佳, 玄番宗一	Modulation by cyclic AMP and phorbol myristate acetate of cephaloridine-induced injury in rat renal cortical slices	<i>Jpn. J. Pharmacol.</i> , 85 , 54(2001)
松村瑛子, 辻坊 裕, 安田正秀, 稲森善彦, 他	Cytotoxicity of the hinokitiol-related compounds, γ -thujaplicin and β -dolabrin	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 24 , 299(2001)

著 者	題 目	掲 載 誌
松村瑛子, 辻坊 裕, 安田正秀, 稲森善彦, 他	Biological activity of α -thujaplicin, the minor component of <i>Thujopsis dolabrata</i> SIEB. et ZUCC. var. <i>hondai</i> MAKINO	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 24 , 607(2001)
辻坊 裕, 高田千秋, 辻 明彦, 小阪光生, 宮本勝城, 稲森善彦	Cloning, sequencing, and expression of the gene encoding an intracellular β -D-xylosidase from <i>Streptomyces thermoviolaceus</i> OPC-520	<i>Biosci. Biotechnol. Biochem.</i> , 65 , 1824(2001)
松村瑛子, 片山 哲, 他	A benzofuran glycoside and acetylenic acid from the fungus <i>Laetiporus sulphureus</i> var. <i>miniatus</i>	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 49 , 327(2001)
松村瑛子, 片山 哲, 他	Two new steroidal derivatives from the fruit body of <i>Chlorophyllum molybdites</i>	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 49 , 1030(2001)
坂口 実, 藤森毅至, 佐藤友子, 松村瑛子	Effects of β -casomorphins on neuronal survival in culture of embryonic chick dorsal root ganglion neurons	<i>Jpn. J. Pharmacol.</i> , 86 , 363(2001)
加藤義春	Überlegungen zum Nationalstaatsproblem (I)	ばいでいあ, 25 , 153(2001)
濱中久美子	ル・フォール文学に対するエルンスト・トレルチの影響について	ばいでいあ, 25 , 41(2001)
濱中久美子	ゲルトルート・フォン・ル・フォールの文学の特徴について—女性, 教会, 祖国を中心に—	キリスト教文藝 第十八輯, 112(2001)
楠瀬健昭	Reading Short Stories in College	ばいでいあ, 25 , 135(2001)
[追補 2000]		
佐久間寛, 藤本陽子, 合田有香子, 藤田 直	Tetrahydrobiopterin inhibits copper-induced oxidation of low density lipoprotein	<i>Res. Commun. Mol. Pathol. Pharmacol.</i> 107 , 397(2000)

2. 総説・解説

著 者	題 目	掲 載 誌
千熊正彦	二核錯体を含むシスプラチン関連白金(Ⅱ)錯体と核酸との相互作用	<i>Biomed. Res. Trace Elements</i> , 12 , 118(2001)
木村捷二郎	放射線殺滅菌における問題点(その2) —生薬の放射線殺滅菌の実用化に向けて—	防菌防黴誌, 29 , 483(2001)
木村捷二郎	放射線殺滅菌技術の利用(3) —生薬の微生物汚染に関する規制と対策—	防菌防黴誌, 29 , 651(2001)
木村捷二郎	生薬の放射線殺滅菌におけるトレーサビリティ	放射線と産業, 89 , 13(2001)
草野源次郎	サラシナショウマ属植物の含有成分に関する研究	<i>YAKUGAKU ZASSHI</i> , 121 , 497, (2001)
草野源次郎	重要薬用資源のカンゾウについて	薬用植物研究, 24 , 1, (2001)
芝野真喜雄	国内で植栽されるカンゾウ属植物	薬用植物研究, 24 , 6, (2001)
馬場きみ江	ダイエットのお茶 あしたば茶	健康, 7月号附録, 6(2001)
馬場きみ江	生薬解説(38)和羌活	日病薬誌, 37 , 71(2001)
馬場きみ江	伊豆諸島「あしたば」の精力増強効果	よろず医者いらず, 7月, 191(2001)

著 者	題 目	掲 載 誌
井上晴嗣, 池田 潔	毒ヘビ血液に存在する3種のホスホリパーゼA ₂ 阻害タンパク質ファミリー	生化学, 73, 92(2001)
田中一彦, 他	TDMの有用性とその実際	救急・集中治療, 13, 795(2001)
田中一彦, 他	保存期腎不全の薬物療法; 腎機能悪化をいかに防ぐか?(その1)	月刊薬事, 43, 2407(2001)
田中一彦, 他	透析患者におけるジゴキシンのTDM	TDM研究, 18, 263(2001)
松村靖夫, 他	Vatanidipine hydrochloride: a new long-lasting antihypertensive agent	Exp. Opin. Invest. Drugs, 10, 139(2001)
松村靖夫	腎虚血再灌流障害: 発症, 進展機構と障害改善薬	応用薬理, 60, 103(2001)
松村靖夫	エンドセリン受容体拮抗薬と内皮機能	血圧, 8, 67(2001)
[追補 2000]		
草野源次郎, 芝野真喜雄, 喜多俊二	国内薬用植物園保有の主なカンゾウ属植物について	薬用植物研究, 23, 23(2000)
草野源次郎, 芝野真喜雄	薬用植物の生産栽培はいかにあるべきか—ウラルカンゾウ栽培のための基礎研究から学ぶ—	薬用植物研究, 23, 1(2000)
高岡昌徳, 伊藤 誠, 岡本尚子, 大喜多守, 松村靖夫	Proteasome inhibition: a novel approach to the treatment of cardiovascular diseases	Current Topics in Pharmacology, 5, 99(2000)

3. 著書

著 者	題 目	出 版 社
友尾幸司, 石田寿昌, 他	タンパク質と核酸の分離精製 タンパク質の高次構造解析のための試料調製法	廣川書店(2001)
春沢信哉, 今津友成, 高嶋誠一郎, 荒木理佐, 栗原拓史, 他	<i>Histamine Research in the New Millenium</i> , Structure-activity relationship of histamine H ₃ -ligands: Organic synthesis of imidazole C-nucleoside derivatives	Elsevier Science(2001)
草野源次郎	発芽玄米 —ガンや糖尿病などの生活習慣病を予防する食品—	健全社 6月(2001)
馬場きみ江	原生林あしたば	チクマ秀版社, 10月(2001)
掛見正郎	第14改正 日本薬局方解説書 一般試験法	廣川書店, (2001)
掛見正郎, 他	林 正弘, 谷川原祐介 編 「生物薬剤学」 第10章 薬理効果の速度論	南江堂, (2001)
掛見正郎, 中元安雄, 田中一彦, 西野隆雄	近畿地区薬学部学生実務実習に関する協議会編 「薬学生のための病院・薬局実務実習の手引き 2001年版」	じほう社, (2001)
掛見正郎, 中元安雄, 田中一彦, 西野隆雄	近畿地区薬学部学生実務実習に関する協議会編 「薬学生のための病院・薬局実習用医薬品集 2001年版」	じほう社, (2001)
掛見正郎, 他	辻彰編「薬剤師のための常用医薬品情報集 2001年版」	廣川書店, (2001)
松村靖夫	疾患別薬理学, 第4版 第3章 神経薬理学の基礎: 分担執筆	廣川書店(2001)

著 者	題 目	出 版 社
玄番宗一, 他	非臨床試験マニュアル	エル・アイ・シー(2001)
玄番宗一, 他	疾患別薬理学第4版	廣川書店(2001)

4. その他

著 者	題 目	掲 載 誌
藤田芳一	ICP-AESとICP-MS	第48回機器による分析化学講習会 テキスト, 69, (2001)
千熊正彦	時代の香り	ぶんせき, 165(2001)
掛見正郎, 他	病院実務実習と大学・医療機関の連携	ファルマシア, 37, 869(2001)
松村靖夫	ゴマに特有の成分が高血圧を改善し, 心臓病, 脳卒中を防ぐと動物実験で確認	壮快 3月号, 160(2001)

葦

発行

大阪薬科大学広報委員会

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4-20-1

TEL (0726) 90-1000 (代表)

FAX (0726) 90-1005

URL : <http://www.oups.ac.jp>